



使用説明書 〈スキャナー機能編〉



-
- 1 読み取った文書をメールで送信する**
 - 2 読み取った文書をフォルダーに送信する**
 - 3 スキャナー機能を使って文書を蓄積する**
 - 4 ネットワークTWAIN スキャナーで文書を読み取る**
 - 5 いろいろな読み取りの設定**
 - 6 付録**

ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『本機のご利用にあたって』『安全上のご注意』をお読みください。



はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載しております。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。



複製、印刷が禁止されているもの

本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。

1) 複製、印刷することが禁止されているもの

(見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。)

- ・紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- ・日本や外国の郵便切手、印紙

(関係法律)

- ・紙幣類似証券取締法
- ・通貨及証券模造取締法
- ・郵便切手類模造等取締法
- ・印紙等模造取締法
- ・(刑法 第148条第162条)

2) 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

- ・外国の紙幣、貨幣、銀行券
- ・株券、手形、小切手などの有価証券
- ・国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- ・個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画

(関係法律)

- ・刑法 第149条第155条第159条第162条
- ・外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

3) 著作権法で保護されているもの

著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

* 画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。

使用説明書の分冊構成

お使いになる目的に応じて、必要な使用説明書をお読みください。

★重要

- ・本機の使用説明書は、紙マニュアルと電子マニュアル（PDF形式）が用意されています。
- ・電子マニュアルは、付属のCD-ROMに収録されています。
- ・提供される形態は使用説明書により異なります。詳しくは、「マニュアル一覧表」を参照してください。
- ・PDF形式の使用説明書を表示するには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Readerが必要です。

◆本機のご利用にあたって

「安全上のご注意」について記載しています。本機のご利用前に必ずお読みください。
また、本機で使用できる機能の概要、機械を使うための準備、操作部の説明、文字入力方法、付属CDのインストール方法などについても説明しています。

◆初期設定編

本機を使うための各機能の初期設定方法、アドレス帳の登録方法、機器の接続方法などについて説明しています。

◆こんなときには

困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。

◆セキュリティ編

管理者向けの説明書です。本機を不正な使用やデータの改ざんといった脅威から守るために、各管理者の設定方法、ユーザー認証の設定方法などについて説明しています。
セキュリティ強化機能や認証の設定を行う前に必ずお読みください。

◆コピー機能 / ドキュメントボックス機能編

コピーを使うための設定、機能と操作方法、原稿の設定方法について説明しています。また、ドキュメントボックスの使用方法についても説明しています。

◆プリンター機能編

プリンターを使うための設定、機能と操作方法について説明しています。

◆スキャナー機能編

スキャナーを使うための設定、機能と操作方法について説明しています。

◆ネットワークガイド

ネットワーク環境で使う方法、付属のソフトウェアを使う方法について説明しています。

◆RP/GL2編

RP/GL2エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆RTIFF編

RTIFFエミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

◆その他の使用説明書

- ・クイックガイド
- ・PostScript3編

マニュアル一覧表

分冊名	紙マニュアル	電子マニュアル (PDF 形式)
本機のご利用にあたって	あり	なし
初期設定編	なし	あり
こんなときには	あり	なし
セキュリティ編	あり	なし
コピー機能 / ドキュメントボックス機能編	なし	あり
プリンター機能編	なし	あり
スキャナー機能編	なし	あり
ネットワークガイド	なし	あり
RP-GJ/2 編	なし	あり
RTIFF 編	なし	あり
PostScript 3 編	なし	あり
クイックガイド	あり	なし

目次

使用説明書の分冊構成	1
マニュアル一覧表	2
この本の読みかた	7
マークについて	7
おもなオプションと略称	8
スキャナー機能について	9
画面について	10
簡単画面について	11
確認画面について	12
設定確認画面について	12
プレビュー画面について	13
送信結果確認画面について	15
原稿の読み取り開始方法について	17
スキャナー初期設定項目一覧	18

1. 読み取った文書をメールで送信する

メール送信をする前に	21
メール送信の概要	21
メール送信するための準備の流れ	22
メールアドレスのアドレス帳への登録について	22
メール送信画面について	23
基本的なメール送信の操作手順	24
メール送信画面に切り替える	27
メール送信先を指定する	28
本機のアドレス帳に登録されている送信先を選択するとき	28
宛先表一覧から送信先を選択するとき	28
登録番号を入力して送信先を選択するとき	29
本機のアドレス帳から送信先を検索して選択するとき	30
メールアドレスを直接入力するとき	32
LDAP サーバーから送信先を検索して選択するとき	33
直接入力した宛先をアドレス帳に登録する	35
メール送信者を指定する	36
送信者一覧から送信者を選択するとき	36
登録番号を入力して送信者を選択するとき	37
本機のアドレス帳から送信者を検索して選択するとき	37
メールの件名を設定する	39
メールの本文を設定する	40
本文を一覧から選択するとき	40
本文を直接入力するとき	41
メール送信と蓄積を同時に使う	42
URL アドレスをメール送信する	43

2. 読み取った文書をフォルダーに送信する

フォルダー送信をする前に	45
フォルダー送信の概要	45
共有フォルダーに送信するとき	45
FTP サーバーに送信するとき	46
NetWare サーバーに送信するとき	47
フォルダー送信するための準備の流れ	48
送信先フォルダーのアドレス帳への登録について	49
フォルダー送信画面について	49
基本的なフォルダー送信の操作手順	51
フォルダー送信画面に切り替える	53
フォルダー送信先を指定する	54
本機のアドレス帳に登録されている送信先を選択するとき	54
宛先表一覧から送信先を選択するとき	55
登録番号を入力して送信先を選択するとき	55
本機のアドレス帳から送信先を検索して選択するとき	56
ネットワーク上の共有フォルダーに送信するとき	58
送信先のパスを直接入力するとき	58
ネットワーク上のコンピューターから送信先を参照して、パスを指定するとき	60
FTP サーバーに送信するとき	62
FTP サーバーのパスを直接入力するとき	62
NetWare サーバーに送信するとき	64
NetWare サーバーのパスを直接入力するとき	64
NetWare サーバーから送信先を参照して、パスを指定するとき	66
指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する	68
フォルダー送信と蓄積を同時に行う	69

3. スキャナー機能を使って文書を蓄積する

蓄積をする前に	71
スキャナー機能を使った蓄積の概要	71
基本的な蓄積の操作手順	73
文書情報を設定する	75
ユーザー名を設定する	75
文書名を設定する	76
パスワードを設定する	77
蓄積した文書の一覧表示について	78
一覧画面について	78
一覧画面から目的の文書を検索する	80
ユーザー名で検索する	80
文書名で検索する	81
蓄積文書を確認する	82
一覧画面から蓄積文書を確認する	82
クライアントコンピューターから蓄積文書を確認する	84
Web Image Monitor での表示	84
蓄積文書を送信する	85
蓄積されている文書を送信する	85
蓄積文書の管理	87
蓄積文書を消去する	87
蓄積文書の文書情報を変更する	88
ユーザー名を変更する	88
文書名を変更する	89
パスワードを変更する	90

4. ネットワーク TWAIN スキャナーで文書を読み取る

TWAIN スキャナーを使用するまえに	93
TWAIN スキャナーの概要	94
TWAIN スキャナーを使うための準備の流れ	95
付属 CD-ROM から TWAIN ドライバーをインストールする	96
原稿を読み取る	97
こんな機能もあります	100

5. いろいろな読み取りの設定

読み取り条件を設定する	101
読み取り条件の設定項目	102
原稿種類	102
解像度	102
読み取りサイズ	102
編集	103
定型サイズ以外の大きさの原稿を読み取る	104
不定形サイズの原稿の全面を読み取る場合	104
縦の長さを自動検知するとき	104
縦と横の両方の長さを指定するとき	106
原稿の一部分を読み取る場合	108
不定形サイズで原稿を読み取る場合の原稿のセットのしかた	110
次原稿を待機する	112
読み取り濃度を調整する	113
原稿セット方向を設定する	114
複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取る	116
原稿追加に時間制限を設ける時	116
原稿追加に時間制限を設けないとき	117
ファイル形式とファイル名を設定する	118
ファイル形式を設定する	118
ファイル名を設定する	120
ファイル名の連番の開始番号を変更する	121
PDF ファイルにセキュリティを設定する	122
PDF ファイルを暗号化する	122
PDF ファイルのセキュリティ権限を変更する	124
プログラム	126
よく使う設定を登録する	126
登録内容を呼び出す	127
登録されている内容を変更する	127
登録されている内容を消去する	128
プログラムの登録名称を変更する	128
初期画面の初期値を登録する	129
TWAIN スキャナー使用時の読み取りの設定	130
TWAIN スキャナー使用時の原稿セット方向を設定する	130

6. 付録

解像度と読み取りサイズの関係	133
メール送信、フォルダー送信、蓄積機能を使用するとき	134
TWAIN スキャナーとして使用するとき	135
CD-ROM 収録ソフトウェア	136
オートランプログラムについて	136
TWAIN ドライバー（スキャナードライバー）	136
送信 / 蓄積 / 配信機能の各設定項目の値	137
送信機能	137
メール送信	137
フォルダー送信	138
同報送信	138
蓄積機能	139
仕様	140
索引	141

この本の読みかた

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

△警告

※安全上のご注意についての説明です。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

『本機のご利用にあたって』「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

△注意

※安全上のご注意についての説明です。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

『本機のご利用にあたって』「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

★重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

↓補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

○参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。各タイトルの一番最後に記載しています。

[]

キーとボタンの名称を示します。

『 』

本書以外の分冊名称を示します。

おもなオプションと略称

おもなオプションの名称と、本文中で使用している略称について説明します。

商品名	略称
拡張無線 LAN ボード タイプ J	拡張無線 LAN ボード

スキャナー機能について

本機のスキャナー機能を利用してできることを説明します。
各機能について詳しくは、それぞれの章を参照してください。

◆ 読み取った文書を送信する

本機で読み取った文書を、いろいろな方法でコンピューターに送信することができます。

- ・メールに添付して送信する

詳しくは1章「読み取った文書をメールで送信する」を参照してください。

- ・共有フォルダーに送信する

詳しくは2章「読み取った文書をフォルダーに送信する」を参照してください。

- ・FTPサーバーに送信する

詳しくは2章「読み取った文書をフォルダーに送信する」を参照してください。

- ・NetWareサーバーに送信する

詳しくは2章「読み取った文書をフォルダーに送信する」を参照してください。

◆ TWAIN ドライバーを利用して文書を読み取る

TWAIN ドライバーを使用することで、本機にセットした原稿をクライアントコンピューターからの指示で読み取ることができます。詳しくは5章「ネットワーク TWAIN スキャナーで文書を読み取る」を参照してください。

◆ 文書を蓄積する

読み取った文書を本機のハードディスクに蓄積できます。蓄積した文書は、あとから送信することができます。詳しくは3章「スキャナー機能を使って文書を蓄積する」を参照してください。

■ 参照

- ・P.21 「読み取った文書をメールで送信する」
- ・P.45 「読み取った文書をフォルダーに送信する」
- ・P.93 「ネットワーク TWAIN スキャナーで文書を読み取る」
- ・P.71 「スキャナー機能を使って文書を蓄積する」

画面について

簡単画面と 3 つの確認画面（設定確認画面、プレビュー画面、送信結果確認画面）について説明します。

メール送信画面、フォルダー送信画面、蓄積文書の一覧画面については、それぞれの章で説明しています。詳しくは「メール送信画面について」、「フォルダー送信画面について」、「一覧画面について」を参照してください。

 参照

- P.23 「メール送信画面について」
- P.49 「フォルダー送信画面について」
- P.78 「蓄積した文書の一覧表示について」

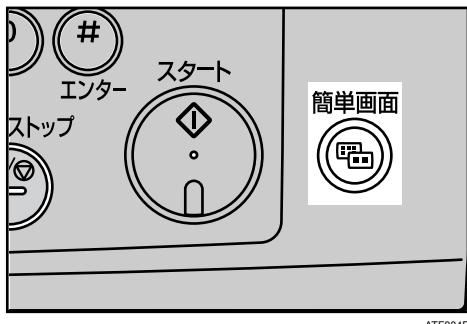
簡単画面について

簡単画面への切り替え方法や、表示されるキーについて説明します。

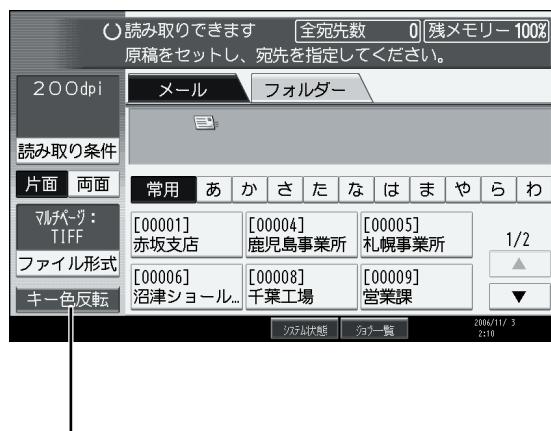
簡単画面とは、主な機能のみを表示した画面です。

[簡単画面] キーを押すと、スキャナー初期画面から簡単画面に切り替わります。

文字サイズとキーサイズが拡大され、より簡単に操作することができます。



メール送信簡単画面



AVB003S

1 [キー色反転]

画面のコントラストを強めたいときに押します。

スキャナー初期画面には適用されません。

補足

- ・スキャナー初期画面に切り替えたいときは、再度 [簡単画面] キーを押してください。
- ・簡単画面では表示されないキーがあります。

確認画面について

設定確認画面、プレビュー画面、送信結果確認画面について説明します。

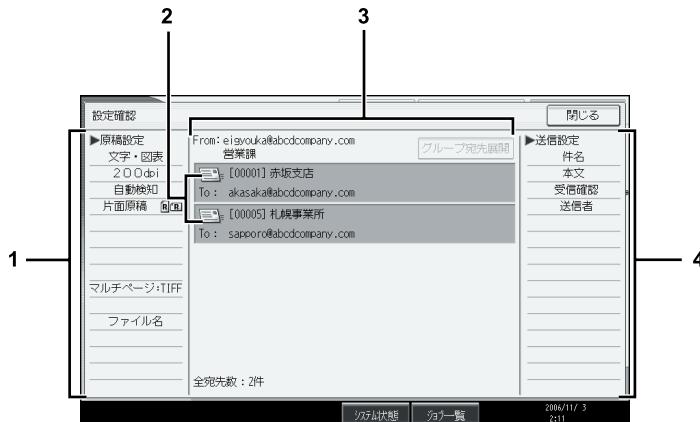
設定確認画面について

設定確認画面とは、原稿読み取りの設定と送信の設定を確認できる画面です。

[設定確認] を押すと、スキャナー初期画面から設定確認画面に切り替わります。



設定確認画面



AVB004S

1 原稿設定

読み取り条件や原稿セット方向などの読み取り時の設定が表示されます。

2 送信機能アイコン

設定した送信機能のアイコンが表示されます。

3 送信者と送信先

指定した送信者と送信先または配信先が表示されます。

4 送信設定

送信者や件名などの送信時の設定が表示されます。

プレビュー画面について

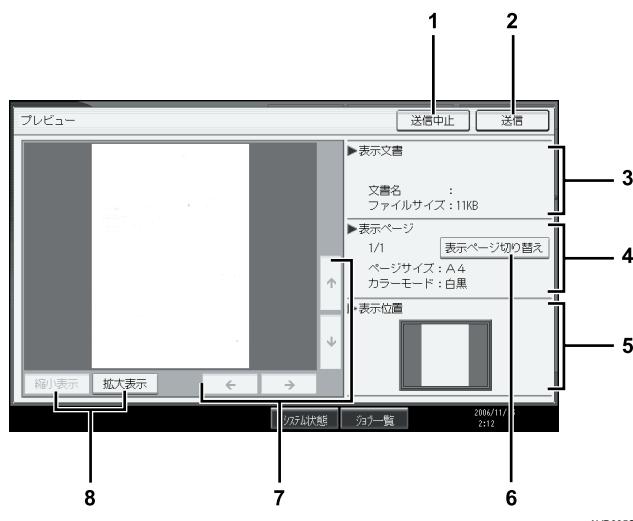
プレビュー画面とは、読み取った文書の内容を確認する画面です。

ここでは、メール送信、フォルダー送信時前に確認するプレビュー画面について説明します。

読み取り前に【プレビュー】を押し、反転されている状態で読み取りを開始すると、プレビュー画面が表示されます。

読み取り内容を確認した後で送信、または送信を中止できます。

プレビュー画面



AVB005S

1 [送信中止]

プレビュー画面を閉じて送信を中止します。

2 [送信]

プレビュー画面を閉じて送信します。

3 表示文書

文書名、ファイルサイズが表示されます。

4 表示ページ

表示ページ番号と総ページ数、ページサイズ、カラー モードが表示されます。

5 表示位置

画像を拡大したときに、文書に対して表示されている位置が表示されます。

6 [表示ページ切り替え]

選択した文書の表示ページを変更します。

7 [←] [→] [↑] [↓]

表示させる部分を移動できます。

8 [縮小表示]、[拡大表示]

文書を縮小または拡大して表示できます。

 **補足**

- ・原稿サイズが 457mm×609mm、または A2 より大きい場合、プレビュー機能は利用できません。
- ・[蓄積のみ] を選択して読み取る場合はプレビュー機能は利用できません。
- ・蓄積した文書の内容を確認したいときは、蓄積文書の一覧画面からプレビュー画面を表示してください。蓄積文書のプレビュー表示について詳しくは「一覧画面から蓄積文書を確認する」を参照してください。
- ・画像ファイルの破損などの理由で、プレビューが表示されないときがあります。再度読み取ってください。

 **参考**

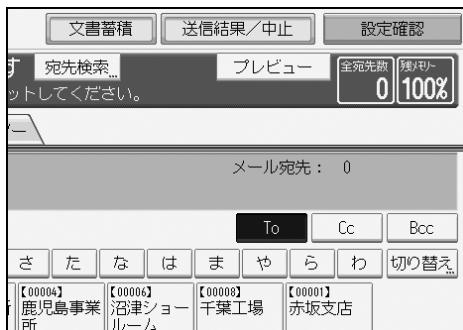
- ・P.82 「一覧画面から蓄積文書を確認する」

送信結果確認画面について

送信結果確認画面の表示方法や、表示される項目について説明します。

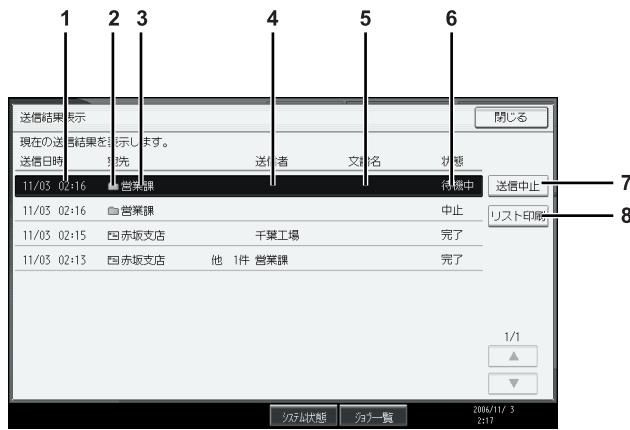
送信結果確認画面とは、メール送信、フォルダー送信の結果を確認できる画面です。

[送信結果 / 中止] を押すと、送信結果確認画面が表示されます。



送信結果は一度に9件まで表示されます。[▲]または[▼]を押すと表示が切り替わります。

送信結果確認画面



AVB006S

1 送信日時

本機からの送信指示を受け付けた日時、または完了、不達、中止が確定した日時が表示されます。

2 送信機能アイコン

使用した送信機能のアイコンが表示されます。

3 宛先

送信した宛先が表示されます。

メール送信の場合、複数の送信先を選択した場合は、1件目に選択した送信先が表示されます。

残りの送信先は「他 ○○件」と表示されます。

4 送信者

送信者名が表示されます。

5 文書名

蓄積と同時に送信を行ったときと、蓄積されている文書を送信したときは、蓄積文書名が表示されます。

6 状態

「完了」、「送信中」、「待機中」、「不達」、「中止」のいずれかの送信状態が表示されます。

7 [送信中止]

状態が「待機中」の文書を選択して [送信中止] を押すと、送信を中止できます。

8 [リスト印刷]

送信結果が印刷されます。

補足

- ・画面下部にある [ジョブ一覧] からは、スキャナー機能を使った送信結果は確認できません。送信結果の確認は、[送信結果 / 中止] を押して表示される送信結果確認画面で確認できます。
- ・セキュリティの設定によっては、すべての送信結果が表示されない場合があります。

原稿の読み取り開始方法について

原稿の読み取りを開始する方法には、次の2通りがあります。

- ・原稿をセットする
- ・[スタート] キーを押す

工場出荷時の設定では、[スタート] キーを押さなくても、原稿をセットするだけで読み取り、文書の蓄積が開始されます。このとき、[スタート] キーは消灯しています。ただし、以下の場合は、[スタート] キーを押す必要があります。

- ・送信履歴の印刷
- ・読み取るための条件が不足していた場合（たとえば、送信先を選択していない等）、その条件を設定したあと

 **補足**

- ・[スタート] キーを押して原稿の読み取りを開始するように設定することもできます。設定方法については、『初期設定編』「システム初期設定」を参照してください。

スキャナー初期設定項目一覧

スキャナー初期設定で設定できる各種項目と概要について説明します。

スキャナー初期設定画面は【初期設定 / カウンター / 問合せ情報】キーを押して表示させます。詳しい設定方法については『初期設定編』「スキャナー初期設定」を参照してください。

◆ 基本設定

初期設定値の項目名	概要
宛先表見出し切り替え	本体の宛先表が表示されているときに使用する見出しを設定します。
宛先検索対象	初期状態で検索する宛先表の対象を本機のアドレス帳か、または LDAP サーバーから選択します。LDAP サーバーから検索する場合は、[システム初期設定] で、LDAP サーバーを登録して、[LDAP 検索] を [使用する] にする必要があります。
TWAIN 割り込み禁止時間設定	スキャナー機能使用中に、クライアントコンピューターから TWAIN スキャナーの読み取り指示があった場合の本機の動作を設定します。
優先本体宛先表	本体で優先して表示させる宛先表を、メールの宛先表か、フォルダーの宛先表から選択します。
送信履歴満杯時印刷設定	送信履歴が満杯になったときの本機の動作を設定します。
送信履歴印刷	送信履歴情報を印刷します。印刷後、履歴情報は消去されます。
送信履歴消去	送信履歴情報を消去します。印刷は行われません。

◆ 読み取り設定

初期設定値の項目名	概要
次原稿待機設定	複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取らせる場合に、追加原稿を待機するときの動作を [待機する]、[待機しない]、[指定時間待機する] のいずれかから選択します。[待機しない] または [指定時間待機する] を選択していても、通常画面で [次原稿待機] を選択すると、[待機する] と同じ動作になります。

◆送信設定

初期設定値の項目名	概要
圧縮設定（白黒2値）	読み取ったデータの圧縮について設定します。
送信メールサイズ制限	文書を添付したメールのサイズを制限するか、しないかを設定します。
メールサイズ制限オーバー時分割	文書のサイズが【送信メールサイズ制限】で設定したサイズを超えた場合に、文書を複数のメールに振り分けて送信するか、しないかを選択します。
メール付加情報	読み取った文書をメール送信するとき、メールに定型本文を付加するかどうかを選択します。【付加する】を選択した場合、定型本文の言語を選択します。
シングルページ番号桁設定	シングルページのファイル名に付ける連番数字の桁数を設定します。
蓄積文書メール内容	蓄積文書をメール送信するとき、文書を添付するか、URLリンクを送信するかの初期値を設定します。

◆導入設定

初期設定値の項目名	概要
メニュープロテクト設定	管理者以外のユーザーでも設定を変更できる機能に対して、ユーザーのアクセス権のレベルを設定します。

1. 読み取った文書をメールで送信する

1

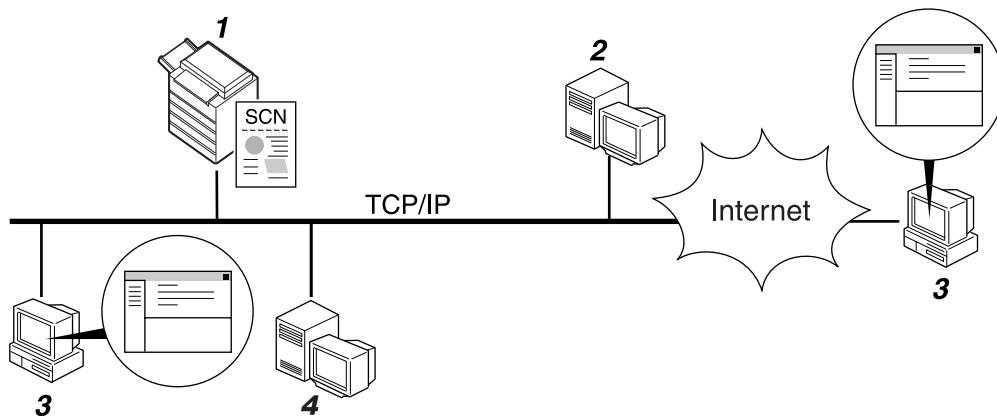
スキャナーから読み取った文書をメールに添付し、電子メールシステムを使って LAN やインターネット経由で送信できます。

メール送信をする前に

メール送信するために必要な準備や操作などについて説明します。

メール送信の概要

スキャナー機能を使ったメール送信の概念について説明します。



1 本機

読み取った文書を電子メールに添付し、メールサーバーに送信します。

2 SMTP サーバー

SMTP プロトコルの電子メール送信サーバーです。SMTP サーバーは必ずしも同一 LAN 上に存在する必要はありません。SMTP の電子メールが使える環境であれば利用できます。送信された電子メールを指定された宛先に LAN やインターネット経由で転送します。

3 クライアントコンピューター

電子メールソフトで、文書の添付されたメールを受信します。

4 LDAP サーバー

メールアカウントなどを管理し、ネットワーク上のコンピューターからの照会や検索に対応するサーバーです。LDAP サーバーを設置すると、本機から宛先を検索できます。

メール送信するための準備の流れ

スキャナーで読み取った文書をメール送信するための準備や設定について説明します。

1

1 ネットワーク環境に接続します。

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブル、または無線 LAN(IEEE 802.11b) で接続します。

2 [システム初期設定] でネットワークの設定をします。

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブルで接続したときは、主に次の項目を設定します。詳しくは、『初期設定編』「ネットワークの設定」を参照してください。

- ・本体の IPv4 アドレスとサブネットマスクを設定します。
- ・IPv4 ゲートウェイアドレスを設定します。
- ・[有効プロトコル] で [IPv4] を有効にします。
- ・SMTP サーバーを設定します。

3 必要に応じて [スキャナー初期設定] の [送信設定] で設定を変更します。

↓ 補足

- ・本機では SMTPS (SMTP over SSL) は使用できません。
- ・無線 LAN(IEEE 802.11b) でネットワーク環境に接続するには、拡張無線 LAN ボードが必要です。詳しくは『ネットワークガイド』を参照してください。
- ・ネットワークの環境によって、[システム初期設定] で設定する項目は異なります。ネットワークの設定について詳しくは、『初期設定編』「ネットワークの設定」を参照してください。
- ・[スキャナー初期設定] について詳しくは、『初期設定編』「スキャナー初期設定」を参照してください。

メールアドレスのアドレス帳への登録について

よく使うメールアドレスは、あらかじめアドレス帳に登録しておくと便利です。

メールアドレスは、[システム初期設定] の [管理者用設定] にある [アドレス帳登録 / 変更 / 消去] で登録します。登録したメールアドレスはグループにも登録できます。

↓ 補足

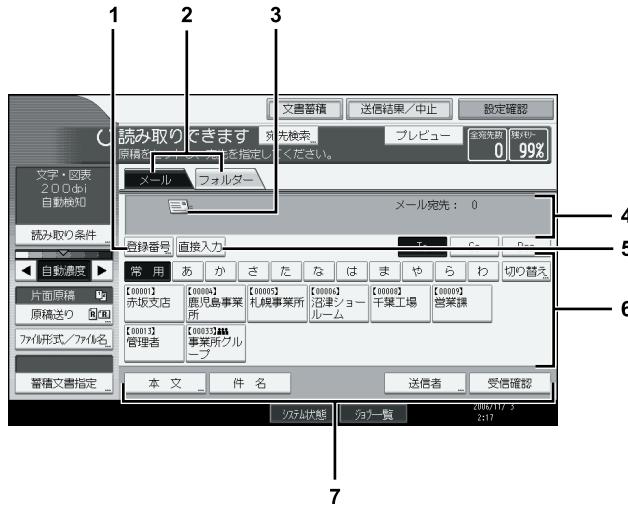
- ・メールアドレスのアドレス帳への登録について詳しくは、『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- ・Web Image Monitor または Network Monitor for Admin を使用してアドレス帳に登録することもできます。インストール方法については『ネットワークガイド』「機器の監視」、アドレス帳登録についてはそれぞれのヘルプを参照してください。
- ・お使いの機種によっては、ユーザーコードが入力された CSV ファイルを Network Monitor for Admin で取り込み、本機へ「設定内容の送信」をしているあいだは機器操作ができないになります。

メール送信画面について

メール送信するときの画面の構成について説明します。

画面に表示されているそれぞれの機能項目は、選択キーになっています。押すことによって、項目を選んだり、指定したりすることができます。

機能項目が選択、または指定されたとき、のように反転表示されます。機能項目が選択、または指定できないときは、のようにうすく表示されます。



AVB011S

1 [登録番号]

送信先を5桁の登録番号で指定するときに押します。

2 メール / フォルダー

メール送信画面からフォルダー送信画面へ切り替えるときに押します。

また、同じ文書をメール送信とフォルダー送信の両方の宛先へ、同時に送るときに切り替えます。

3 メール送信アイコン

メール送信画面であることを示すアイコンです。

4 送信先表示欄

指定した送信先が表示されます。送信先が複数指定されているときは、[▲] または [▼] を押すと、選択した送信先が順に表示されます。

5 [直接入力]

アドレス帳に登録されていない送信先を指定する場合に、ここを押して表示されたソフトキーボードからメールアドレスを入力します。

6 宛先表一覧

本機で管理している宛先表の一覧が表示されます。一覧をすべて表示しきれない場合は、[▲] または [▼] を押して表示を切り替えます。

グループの送信先には、グループを示すマーク () が付きます。

7 [本文] [件名] [送信者] [受信確認]

送信する文書の本文、件名、送信者名、メールの受信確認を設定します。

基本的なメール送信の操作手順

メール送信の基本的な操作手順について説明します。

1

1 前の設定が残っていないことを確認します。

前の設定が残っているときは [リセット] キーを押します。

2 フォルダー送信の画面が表示されている場合は、メール送信の画面に切り替えます。

詳しくは、「メール送信画面に切り替える」を参照してください。

3 必要に応じて [読み取り条件] を押し、解像度や読み取りサイズなどを設定します。

詳しくは、「いろいろな読み取りの設定」を参照してください。



4 必要に応じて、読み取り濃度を調整します。

詳しくは「読み取り濃度を調整する」を参照してください。

5 必要に応じて [原稿セット方向] を押し、用紙のセット方向などを設定します。

詳しくは、「原稿セット方向を設定する」を参照してください。

6 必要に応じて [ファイル形式 / ファイル名] を押し、ファイル名とファイル形式などを設定します。

詳しくは、「ファイル形式とファイル名を設定する」を参照してください。

7 送信先を指定します。

複数の送信先を指定することもできます。

詳しくは、「メール送信先を指定する」を参照してください。

8 必要に応じて [本文] を押し、本文を設定します。

詳しくは、「メールの本文を設定する」を参照してください。

9 必要に応じて【件名】を押し、件名を設定します。

詳しくは、「メールの件名を設定する」を参照してください。

10 【送信者】を押して送信者（メールの送信元）を指定します。

詳しくは、「メール送信者を指定する」を参照してください。

11 メールの受信確認をする場合は、【受信確認】を押します。

【受信確認】を選択した場合は、メール送信先の相手がメールを読んだことを通知するメールが、選択した送信者宛に送られます。

12 原稿をセットします。**13 読み取りが自動で開始されない場合、【スタート】キーを押します。**

原稿を複数回に分けて読み取る場合は、続けて次の原稿をセットします。

詳しくは「複数枚の原稿を1つの文書として読み取る」を参照してください。

↓ 補足

- ・送信先を複数選択したときは、送信先表示欄横の【▲】または【▼】を押すと選択した送信先が順に表示されます。
- ・送信先の選択を解除するには、解除する送信先を送信先表示欄に表示させ、【クリア / ストップ】キーを押します。宛先表一覧から選択した送信先の場合は、選択されている送信先をもう一度押して、送信先の選択を解除することもできます。
- ・[システム初期設定]で、管理者メールアドレスを【送信者】に指定しておくことができます。管理者メールアドレスを【送信者】に設定しておくと、メール送信時に【送信者】を指定することなく、送信することができます。詳しくは『初期設定編』「ファイル転送設定」を参照してください。
- ・セキュリティの設定によっては、ログインしたユーザーが【送信者】に設定される場合があります。
- ・受信確認機能は送信者を設定した場合とユーザーログインしている場合に有効になります。ただし、メール送信先で使用しているメールソフトがMDN (Message Disposition Notification) に対応していない場合など、【受信確認】通知メールが送信されないことがあります。
- ・原稿をセットする前に【設定確認】キーを押すと、スキャナー初期画面から設定確認画面に切り替わり、送信先などの設定を確認できます。詳しくは「設定確認画面について」を参照してください。
- ・[プレビュー]を押し、反転されている状態で読み取りを開始すると、プレビュー画面が表示されます。送信前に文書がどのような状態で読み取られるのかを確認し、送信を中止するか継続するかを選択できます。詳しくは「プレビュー画面について」を参照してください。
- ・読み取りを中止するには【クリア / ストップ】キーを押します。
- ・メール送信と蓄積を同時に行うこともできます。詳しくは「メール送信と蓄積を同時に行う」を参照してください。

 参照

- P.27 「メール送信画面に切り替える」
- P.101 「いろいろな読み取りの設定」
- P.113 「読み取り濃度を調整する」
- P.114 「原稿セット方向を設定する」
- P.118 「ファイル形式とファイル名を設定する」
- P.28 「メール送信先を指定する」
- P.39 「メールの件名を設定する」
- P.40 「メールの本文を設定する」
- P.36 「メール送信者を指定する」
- P.116 「複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取る」
- P.12 「設定確認画面について」
- P.13 「プレビュー画面について」
- P.42 「メール送信と蓄積を同時に行う」

メール送信画面に切り替える

メール送信画面に切り替える操作手順について説明します。

フォルダー送信画面が表示されている場合は、[メール] を押し、メール送信画面に切り替えます。

配信画面が表示されている場合は、次の手順でメール送信画面に切り替えます。

- / フォルダー送信画面が表示されている場合は、[メール] を押します。



メール送信画面が表示されます。

▼ 補足

- 配信画面で配信先の指定がされていると画面を切り替えることができません。配信先の指定を解除するには、配信画面で配信先表示欄に配信先を表示させ、[クリア / ストップ] キーを押してください。

メール送信先を指定する

メールの送信先の指定方法について説明します。

メール送信先を指定するには、次の方法があります。

- ・本機のアドレス帳に登録されている送信先を選択する
- ・メールアドレスを直接入力する
- ・LDAP サーバーから送信先を検索して選択する

送信先を選択する前に [To] を選択していることを確認してください。また、必要に応じて [Cc] または [Bcc] を押して、送信先を選択してください。

本機のアドレス帳に登録されている送信先を選択するとき

本機のアドレス帳に登録されている送信先の選択方法について説明します。

★ 重要

- ・送信先はあらかじめ [システム初期設定] で登録しておきます。詳しくは、『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

本機のアドレス帳に登録されている送信先を選択するには、次の方法があります。

- ・宛先表一覧から送信先を選択する
- ・登録番号を入力して送信先を選択する
- ・本機のアドレス帳から送信先を検索して選択する

宛先表一覧から送信先を選択するとき

宛先表一覧から、目的の送信先を選択します。

1 宛先表一覧から、文書の送信先を押します。



選択した送信先は反転表示され、画面上部の送信先表示欄に表示されます。

補足

- 目的の送信先が表示されていないときは、次の方法で表示させます。
 - 送信先の頭文字を見出しから選択して表示させる
 - 宛先表一覧横の [▲] または [▼] を押して表示させる
- セキュリティの設定によっては、宛先表一覧に表示される宛先が制限される場合があります。

登録番号を入力して送信先を選択するとき

本機のアドレス帳に送信先ごとに設定されている登録番号から、送信先を選択します。

1 [登録番号] を押します。



2 送信先ごとに設定されている 5 衔の登録番号をテンキーで入力します。

5 衎未満の数値を入力したときは、最後に [#] キーを押します。

例) 00003 を入力する場合

[3]、[#] の順にテンキーを押します。

3 [OK] を押します。

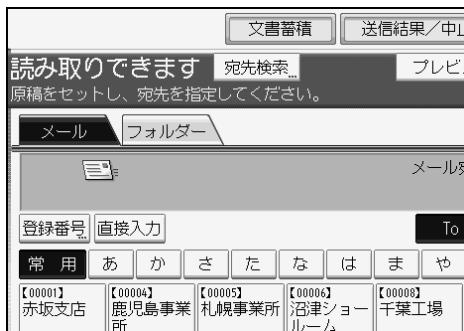
[変更] を押すと、指定した送信先を変更できます。

本機のアドレス帳から送信先を検索して選択するとき

本機のアドレス帳から送信先を検索して選択します。

1 [宛先検索] を押します。

1



2 名前またはヨミガナから検索する場合は、[名前 / ヨミガナ] を押します。

メールアドレスから検索する場合は、[メールアドレス] を押します。

ソフトキーボードが表示されます。

「名前 / ヨミガナ」と「メールアドレス」検索を組み合わせた絞り込み検索もできます。

3 検索する送信先名の文字列の一部を入力します。

メールアドレスから検索する場合は、メールアドレスの文字列の一部を入力します。

4 [OK] を押します。

5 必要に応じて [詳細条件] を押し、検索条件を細かく設定します。

[詳細条件] を押すと、[名前 / ヨミガナ]、[メールアドレス]、[フォルダー] などの検索条件から検索できます。検索条件には [前方一致]、[後方一致] などの一致条件を設定できます。条件を組み合わせることで、絞り込み検索ができます。



画面はサンプル例です。表示される項目が実際のものと違う場合があります。

6 [検索実行] を押します。

検索条件に一致した宛先が表示されます。

7 送信先を選択します。

8 [To]、[Cc] または [Bcc] を選択します。

9 [OK] を押します。

 **補足**

- ・[システム初期設定] で [LDAP 検索] を [使用する] に設定している場合は、画面上部にある [本体アドレス帳] が選択されていることを確認してから、検索を実行してください。
- ・[詳細条件] で表示される、[名前 / ヨミガナ]、[メールアドレス]、[フォルダー] などは本機のアドレス帳に登録されている項目です。詳しくは『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- ・[詳細条件] で表示される一致条件は次のとおりです。
 - ・[前方一致]：入力した文字が、前に位置する名称を検索
例) “ABC”を検索したい場合は “A”を入力
 - ・[後方一致]：入力した文字が、後方に位置する名称を検索
例) “ABC”を検索したい場合は “C”を入力
 - ・[一致]：入力した文字と一致する名称を検索
例) “ABC”を検索したい場合は “ABC”を入力
 - ・[含む]：入力した文字を含む名称を検索
例) “ABC”を検索したい場合は “A”か“B”か“C”を入力
 - ・[含まない]：入力した文字を含まない名称を検索
例) “ABC”を検索したい場合は “D”を入力
- ・[詳細] を押すと、選択した宛先の詳細情報が確認できます。
- ・検索結果は 100 件まで表示できます。

メールアドレスを直接入力するとき

メールアドレスを直接入力します。

1

1 [直接入力] を押します。



メールアドレスのソフトキーボードが表示されます。

2 送信先のメールアドレスを入力します。

3 [OK] を押します。

▼ 補足

- セキュリティの設定によっては、[直接入力] が表示されない場合があります。
- 入力した送信先メールアドレスを変更する場合は、送信先表示欄の左側の [編集] を押します。送信先メールアドレスが入力されたソフトキーボードが表示されるので、任意のメールアドレスを入力して [OK] を押します。
- 直接入力したメールアドレスは、本機のアドレス帳に登録できます。詳しくは「直接入力した宛先をアドレス帳に登録する」を参照してください。

■ 参照

- P.35 「直接入力した宛先をアドレス帳に登録する」

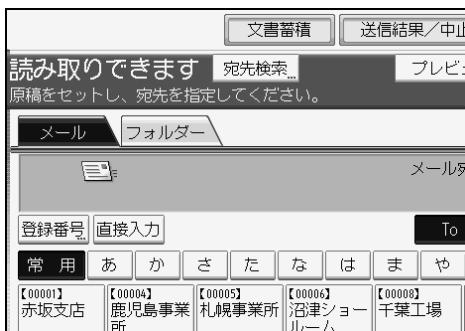
LDAP サーバーから送信先を検索して選択するとき

LDAP サーバーに登録されているアドレスを検索し、メール送信の宛先として設定できます。

★ 重要

- この機能を利用するには、LDAP サーバーがお使いのネットワーク環境に接続されている必要があります。
- LDAP サーバーは、あらかじめ [システム初期設定] で登録しておきます。また、[システム初期設定] で [LDAP 検索] を [使用する] にしてください。詳しくは、『初期設定編』「システム初期設定」を参照してください。

1 [宛先検索] を押します。



2 [本体アドレス帳] の横に表示されている目的の LDAP サーバーを選択します。

LDAP サーバーはあらかじめ [システム初期設定] で登録しておきます。



選択したサーバーに認証が必要な場合は、認証画面が表示されます。正しいユーザー名、パスワードを入力します。

3 名前から検索する場合は、[名前] を押します。

メールアドレスから検索する場合は、[メールアドレス] を押します。

ソフトキーボードが表示されます。

「名前」と「メールアドレス」を組み合わせた絞り込み検索もできます。

検索条件の「名前」で検索する場合、苗字で検索するか名前で検索するかは、LDAP サーバーの設定によります。管理者にお問い合わせください。

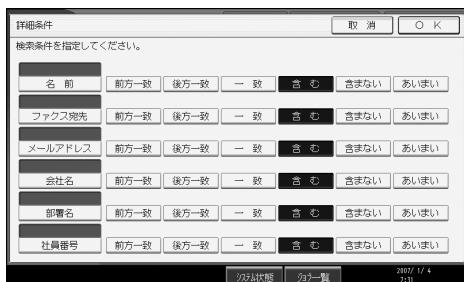
4 検索する送信先名の文字列の一部を入力します。

メールアドレスから検索する場合は、メールアドレスの文字列の一部を入力します。

1

5 [OK] を押します。**6 必要に応じて【詳細条件】を押し、検索条件を細かく設定します。**

【詳細条件】を押すと、「名前」「ファクス宛先」「メールアドレス」「会社名」「部署名」の検索条件から検索できます。検索条件には「前方一致」、「後方一致」などの一致条件を設定できます。条件を組み合わせることで、絞り込み検索ができます。



画面はサンプル例です。表示される項目が実際のものと違う場合があります。

7 [検索実行] を押します。

検索条件に一致した宛先が表示されます。

8 送信先を選択します。**9 [To]、[Cc] または [Bcc] を選択します。****10 [OK] を押します。**
▼ **補足**

- ・【詳細条件】で表示される【ファクス宛先】、【会社名】、【部署名】は LDAP サーバーに登録されている項目です。【システム初期設定】の【LDAP サーバー登録 / 変更 / 消去】で【任意検索条件】を登録しておくと、【詳細条件】で表示される検索項目を 1 つ追加することができます。詳細については、『初期設定編』「システム初期設定」を参照してください。
- ・【詳細条件】で表示される一致条件は次のとおりです。
 - ・【前方一致】：入力した文字が、前に位置する名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“A”を入力
 - ・【後方一致】：入力した文字が、後に位置する名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“C”を入力
 - ・【一致】：入力した文字と一致する名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“ABC”を入力
 - ・【含む】：入力した文字を含む名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“A”か“B”か“C”を入力
 - ・【含まない】：入力した文字を含まない名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“D”を入力
 - ・【あいまい】：あいまい検索（あいまい検索の機能は LDAP サーバーがサポートする方式に依存します）
- ・【詳細】を押すと、選択した宛先の詳細情報が確認できます。
- ・検索結果は 100 件まで表示できます。

- LDAP サーバーから検索したメールアドレスは、文字数が多すぎると正しい宛先として指定できません。指定可能な文字数については、「メール送信」を参照してください。
- LDAP サーバーには、1 アカウントにつき複数のメールアドレスを登録できますが、本機の検索でヒットするのは 1 件だけです。どのメールアドレスがヒットするかは LDAP サーバーに依存しますが、一般的には最初に登録したアドレスです。

 参照

- P137 「メール送信」

直接入力した宛先をアドレス帳に登録する

直接入力した宛先を、本機のアドレス帳に登録する操作手順について説明します。また、LDAP サーバーから選択した宛先も登録できます。

1 登録する送信先を送信先表示欄に表示させます。



2 [宛先登録] を押します。



3 [登録情報] を押し、名前やヨミガナなどの登録情報を設定します。

登録情報の設定について詳しくは、『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

4 [設定] を押します。

 補足

- セキュリティの設定によっては [宛先登録] が表示されず、登録できない場合があります。
- LDAP サーバーから検索して選択した宛先を、本機のアドレス帳に登録する場合は、宛先を表示した後に [宛先登録] を押します。

メール送信者を指定する

メールの送信者を指定する設定手順について説明します。

本機からメール送信をする場合、送信するメールの送信者を指定する必要があります。

1

メール送信者を指定するには、次の方法があります。

- ・送信者一覧から送信者を選択する
- ・登録番号を入力して送信者を選択する
- ・本機のアドレス帳から送信者を検索して選択する

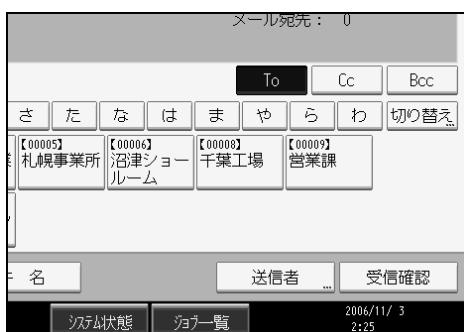
↓ 補足

- ・送信者はあらかじめ【システム初期設定】で登録しておきます。詳しくは、『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- ・【システム初期設定】で、管理者メールアドレスを【送信者】に指定しておくことができます。管理者メールアドレスを【送信者】に設定しておくと、メール送信時に【送信者】を指定することなく、送信することができます。詳しくは『初期設定編』「ファイル転送設定」を参照してください。
- ・セキュリティの設定によっては、ログインしたユーザーが【送信者】に設定される場合があります。
- ・宛先保護コードが設定されている場合は、送信者を選択すると、宛先保護コード入力画面が表示されます。テンキーで宛先保護コードを入力し、【OK】を押します。宛先保護コードが一致すると、送信者名が表示されます。

送信者一覧から送信者を選択するとき

本機の送信者一覧から送信者を選択します。

1 [送信者] を押します。



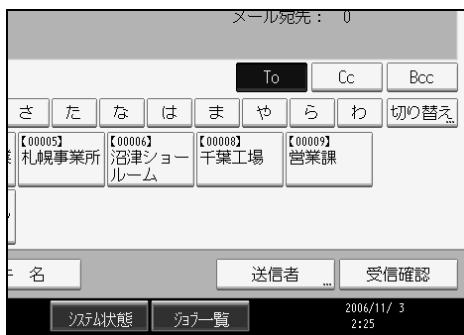
2 送信者を選択します。

3 [OK] を押します。

登録番号を入力して送信者を選択するとき

本機のアドレス帳にユーザーごとに設定されている登録番号から送信者を選択します。

- [送信者] を押します。



- [登録番号指定] を押します。

- ユーザーごとに設定されている5桁の登録番号をテンキーで入力します。

5桁未満の数値を入力したときは、最後に [#] キーを押します。

例) 00006 を入力する場合

[6]、[#] の順にテンキーを押します。

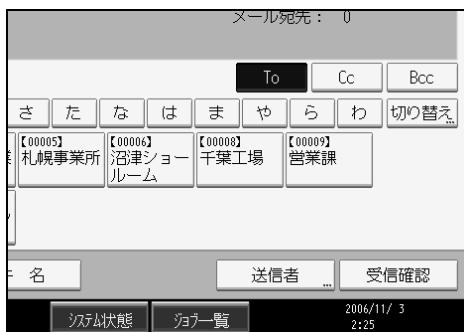
- [OK] を押します。

[変更] を押すと、指定した送信先を変更できます。

本機のアドレス帳から送信者を検索して選択するとき

本機のアドレス帳から送信者を検索して選択します。

- [送信者] を押します。



- [検索] を押します。

- 3** 名前またはヨミガナから検索する場合は、[名前 / ヨミガナ] を押します。
メールアドレスから検索する場合は、[メールアドレス] を押します。
ソフトキーボードが表示されます。
「名前 / ヨミガナ」と「メールアドレス」検索を組み合わせた絞り込み検索もできます。

4 検索する送信者の文字列の一部を入力します。

メールアドレスから検索する場合は、メールアドレスの文字列の一部を入力します。

5 [OK] を押します。

6 必要に応じて [詳細条件] を押し、検索条件を細かく設定します。

[詳細条件] を押すと、[名前 / ヨミガナ]、[メールアドレス]、[フォルダー] などの検索条件から検索できます。検索条件には [前方一致]、[後方一致] などの一致条件を設定できます。条件を組み合わせることで、絞り込み検索ができます。



画面はサンプル例です。表示される項目が実際のものと違う場合があります。

7 [検索実行] を押します。

検索条件に一致した宛先が表示されます。

8 送信者を選択します。

9 [OK] を押します。

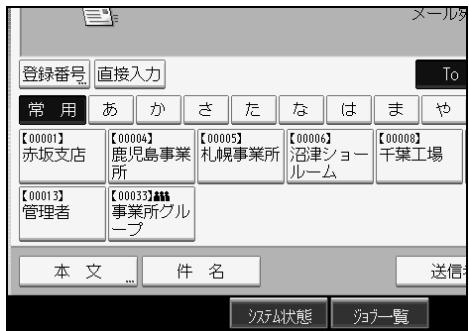
↓ 補足

- ・[詳細条件] で表示される、[名前 / ヨミガナ]、[メールアドレス]、[フォルダー] などは本機のアドレス帳に登録されている項目です。詳しくは『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- ・[詳細条件] で表示される一致条件は次のとおりです。
 - ・[前方一致]：入力した文字が、前に位置する名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“A”を入力
 - ・[後方一致]：入力した文字が、後に位置する名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“C”を入力
 - ・[一致]：入力した文字と一致する名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“ABC”を入力
 - ・[含む]：入力した文字を含む名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“A”か“B”か“C”を入力
 - ・[含まない]：入力した文字を含まない名称を検索
例）“ABC”を検索したい場合は“D”を入力
- ・[詳細] を押すと、選択した宛先の詳細情報が確認できます。

メールの件名を設定する

メールの件名の設定手順について説明します。

- 1 [件名] を押します。



件名のソフトキーボードが表示されます。

- 2 件名を入力します。

- 3 [OK] を押します。

1

メールの本文を設定する

送信するメールに、本文を設定する手順を説明します。

本文を設定するには、次の方法があります。

- ・登録している本文を一覧から選択する
- ・本文を直接入力する

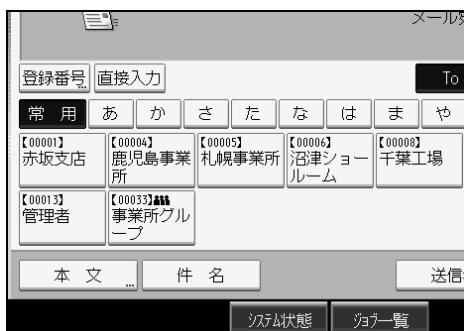
★ 重要

- ・一覧から選択する本文は、あらかじめ【システム初期設定】で登録しておきます。詳しくは『初期設定編』「ファイル転送設定」を参照してください。

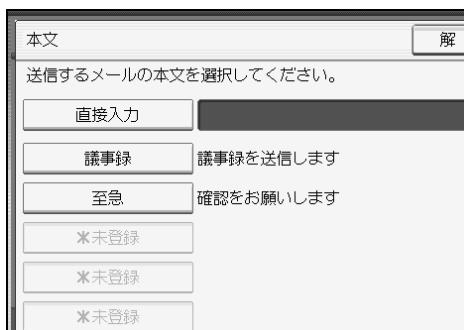
本文を一覧から選択するとき

本文を一覧から選択する手順を説明します。

1 [本文] を押します。



2 設定する本文を選択します。

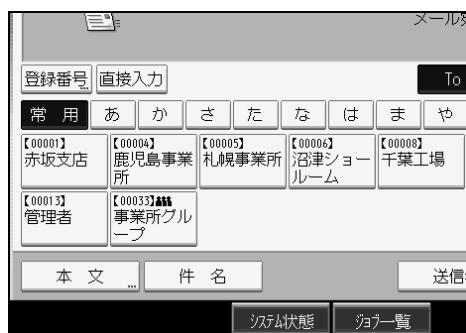


3 [OK] を押します。

本文を直接入力するとき

本文を直接入力する手順を説明します。

- 1 [本文] を押します。



1

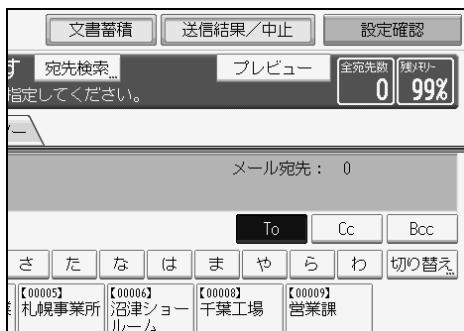
- 2 [直接入力] を押します。
本文のソフトキーボードが表示されます。
- 3 本文を入力します。
- 4 [OK] を2回押します。

メール送信と蓄積を同時に行う

メール送信と蓄積を同時に行う操作手順について説明します。

1

1 [文書蓄積] を押します。



2 [蓄積 + 送信] を選択します。

3 必要に応じて、ユーザー名、文書名、パスワードなどの蓄積文書に関する情報を設定します。

詳しくは、「文書情報を設定する」を参照してください。

4 [OK] を押します。

5 送信先アドレスの指定など、メール送信するための設定をします。

メールを送信する手順について詳しくは「基本的なメール送信の操作手順」を参照してください。

補足

- 蓄積した文書は、再送信することができます。再送信する場合は、[蓄積文書指定] 画面で文書を選択してから送信してください。詳しい手順については、「蓄積文書を送信する」を参照してください。

参考

- P.75 「文書情報を設定する」
- P.24 「基本的なメール送信の操作手順」
- P.85 「蓄積文書を送信する」

URL アドレスをメール送信する

読み取った文書の URL アドレスをメール送信する手順について説明します。

ネットワーク環境に制限があり、メールに文書を添付して送信できない場合などに、この機能を使用します。

- [スキヤー初期設定] の [蓄積文書メール内容] で [URL リンク] を選択します。

設定について詳しくは、『初期設定編』「スキヤー初期設定」を参照してください。

- スキヤー初期画面に戻り、[文書蓄積] を押して [蓄積 + 送信] を選択します。

URL アドレスを送信するには、[蓄積 + 送信] の選択が必要です。

- [OK] を押します。

- 送信先アドレスの指定など、メール送信するための設定をし、送信します。

メールを送信する手順について詳しくは、「基本的なメール送信の操作手順」を参照してください。

送信先には次のようなメールが送信されます。



- メール送信先で、URL アドレスをクリックします。

Web Image Monitor が開きます。

- Web Image Monitor から、ネットワーク経由で文書の閲覧、送信、削除、およびダウンロードをします。

1. 読み取った文書をメールで送信する

補足

- ・Web Image Monitor の機能や、使用するための設定については、『ネットワークガイド』「機器の監視」を参照してください。
- ・Web Image Monitor は、同一ネットワーク環境での使用を推奨します。
- ・使用する環境によっては、メール送信された URL アドレスをクリックしても、ブラウザが起動せず、文書が閲覧できない場合があります。その場合は、同じ URL アドレスを再度クリックするか、ブラウザのアドレス入力欄に、手動で URL アドレスを入力してください。
- ・Web Image Monitor を使った蓄積文書管理機能の詳細は、Web ブラウザに表示された各画面右上の [ヘルプ] をクリックして表示させてください。
- ・URL アドレスをメール送信するのと同時に、フォルダー送信することもできます。フォルダー送信先には URL アドレスではなく、文書が送信されます。

参考

- ・P.85 「蓄積文書を送信する」
- ・P.42 「メール送信と蓄積を同時に使う」
- ・P.24 「基本的なメール送信の操作手順」

2. 読み取った文書をフォルダーに送信する

スキャナーから読み取った文書をネットワーク経由で、共有フォルダー、FTP サーバーのフォルダー、NetWare のフォルダーへ送信できます。

2

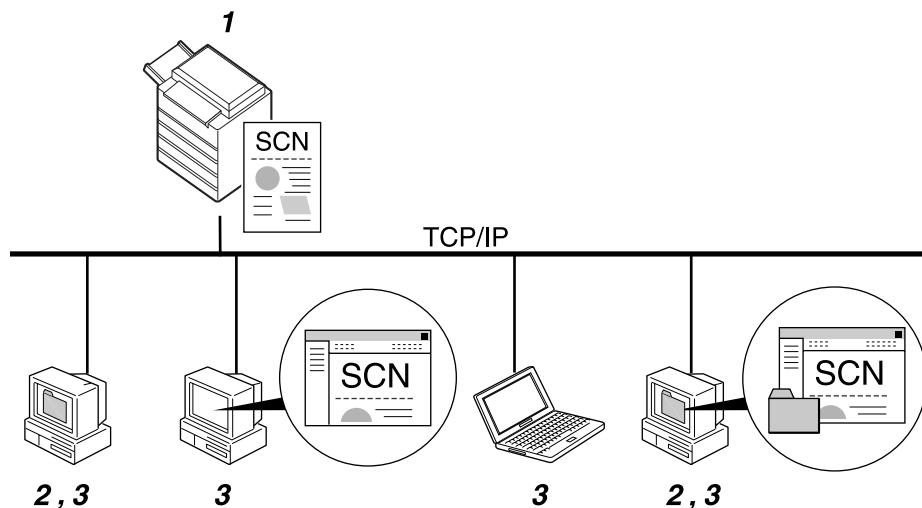
フォルダー送信をする前に

フォルダー送信するために必要な準備や操作などについて説明します。

フォルダー送信の概要

スキャナー機能を使ったフォルダー送信の概念について説明します。

共有フォルダーに送信するとき



ZZZ004S

1 本機

スキャナーから読み取った文書をネットワーク上の共有フォルダーへ送信します。
ネットワーク上の共有フォルダーへ送信するときは SMB プロトコルを使用します。

2 共有フォルダーを持つコンピューター

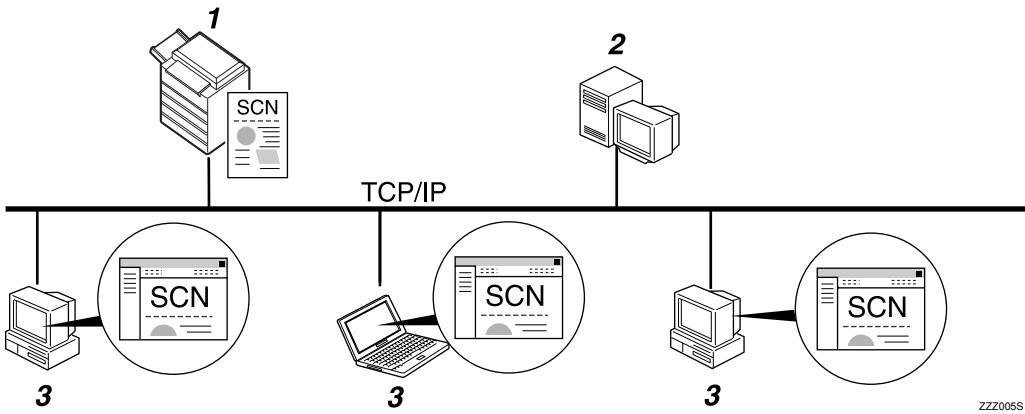
あらかじめ共有フォルダーを作成しておきます。共有フォルダーに読み取った文書が保存されます。

3 クライアントコンピューター

共有フォルダーに保存された文書を閲覧します。

FTP サーバーに送信するとき

2



ZZZ005S

1 本機

スキャナーから読み取った文書を FTP サーバーへ送信します。FTP サーバーのフォルダーへ送信するときは FTP プロトコルを使用します。

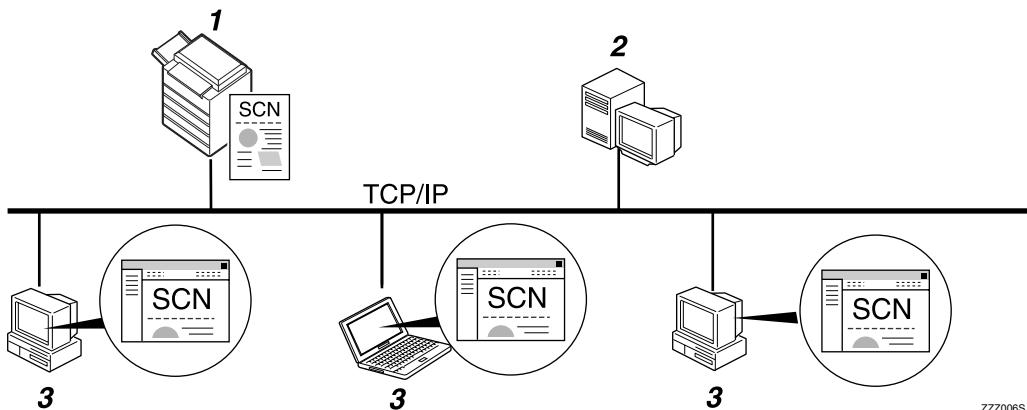
2 FTP サーバー

ネットワーク上のコンピューターとの間でファイル転送サービスを行うサーバーです。送信された文書が保存されます。同一 LAN/WAN 上の FTP サーバーが利用できます。プロキシサーバー経由でのアクセスはできません。

3 クライアントコンピューター

FTP サーバーに保存された画像ファイルを閲覧します。FTP サーバーに接続するためには、FTP クライアントツールが必要です。

NetWare サーバーに送信するとき



ZZZ006S

1 本機

スキャナーから読み取った文書を NetWare サーバーへ送信します。NetWare サーバーのフォルダーへ送信するときは NCP プロトコルを使用します。

2 NetWare サーバー

NetWare 上でファイル共有サービスを行うサーバーです。送信された文書が保存されます。

3 クライアントコンピューター

クライアント用ソフトウェアを組み込んだコンピューターでログインし、文書をダウンロードします。

フォルダー送信するための準備の流れ

スキャナーで読み取った文書をフォルダー送信するための準備や設定について説明します。

★重要

- ・共有フォルダーに送信する場合は、クライアントコンピューターに共有フォルダーを作成してください。
- ・FTP サーバーに送信する場合は、ネットワーク上に FTP サーバーが必要です。
- ・NetWare サーバーに送信する場合は、ネットワーク上に NetWare サーバーが必要です。

1 ネットワーク環境に接続します。

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブル、または無線 LAN(IEEE 802.11b) で接続します。

2 [システム初期設定] でネットワークの設定をします。

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブルで接続したときは、主に次の項目を設定します。詳しくは、『初期設定編』「ネットワークの設定」を参照してください。

- ・本体の IPv4 アドレスとサブネットマスクを設定します。
- ・IPv4 ゲートウェイアドレスを設定します。
- ・[有効プロトコル] で [IPv4] を有効にします。
- ・共有フォルダーに送信する場合は、[有効プロトコル] で [SMB] を有効にします。NetWare に送信する場合は、[有効プロトコル] で [NetWare] を有効にします。

3 必要に応じて [スキャナー初期設定] の [送信設定] で設定を変更します。

↓補足

- ・無線 LAN(IEEE 802.11b) でネットワーク環境に接続するには、拡張無線 LAN ボードが必要です。詳しくは『ネットワークガイド』を参照してください。
- ・ネットワークの環境によって、[システム初期設定] で設定する項目は異なります。ネットワークの設定について詳しくは、『初期設定編』「ネットワークの設定」を参照してください。
- ・[スキャナー初期設定] について詳しくは、『初期設定編』「スキャナー初期設定」を参照してください。
- ・SMB プロトコルによるフォルダー送信は、NetBIOS over TCP/IP の環境下でだけ有効です。NetBEUI では SMB プロトコルによるフォルダー送信はできません。
- ・操作部や Web Image Monitor、Telnet などから SMB、FTP を無効にしても、フォルダー送信を制限することはできません。

送信先フォルダーのアドレス帳への登録について

よく使う送信先フォルダーは、あらかじめアドレス帳に登録しておくと便利です。送信先フォルダーは、[システム初期設定] の [管理者用設定] にある [アドレス帳登録 / 変更 / 消去] で登録します。登録した送信先フォルダーはグループにも登録できます。

補足

- ・送信先フォルダーのアドレス帳への登録について詳しくは、『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- ・Web Image Monitor または Network Monitor for Admin を使用してアドレス帳に登録することもできます。インストール方法については『ネットワークガイド』「機器の監視」、アドレス帳登録についてはそれぞれのヘルプを参照してください。
- ・お使いの機種によっては、ユーザーコードが入力された CSV ファイルを Network Monitor for Admin で取り込み、本機へ「設定内容の送信」をしているあいだは機器操作ができないことがあります。

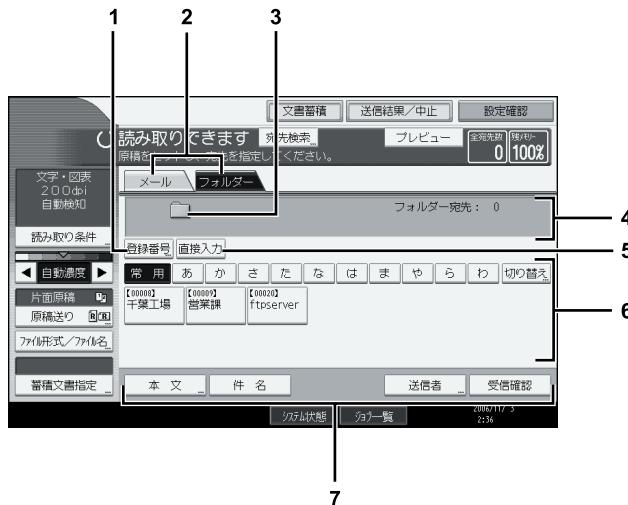
2

フォルダー送信画面について

フォルダーに送信するときの画面の構成について説明します。

表示されているそれぞれの機能項目は、選択キーになっています。選択キーを押すことによって、項目を選んだり、指定したりすることができます。

機能項目が選択、または指定したとき、設定する のように反転表示されます。機能項目が選択、または指定できないときは、OK のようにうすく表示されます。



AVB007S

1 [登録番号]

送信先を 5 行の登録番号で指定するときに押します。

2 メール / フォルダー

フォルダー送信画面からメール送信画面へ切り替えるときに押します。

また、同じ文書をフォルダー送信とメール送信の両方の宛先へ、同時に送るときに切り替えます。

3 フォルダー送信アイコン

フォルダー送信画面であることを示すアイコンです。

4 送信先表示欄

指定した送信先が表示されます。送信先を複数指定しているときは、[▲] または [▼] を押すと、選択した送信先が順に表示されます。

5 [直接入力]

アドレス帳に登録されていない送信先を指定する場合に、ここを押して表示されたソフトキーボードからフォルダー送信先を入力します。

6 宛先表一覧

本機で管理している宛先表の一覧が表示されます。

一覧をすべて表示しきれない場合は、[▲] または [▼] を押して表示を切り替えます。グループの送信先には、グループを示すマーク (●●●) が付きます。

7 [本文] [件名] [送信者] [受信確認]

送信する文書の本文、件名、送信者名、メールの受信確認を設定します。フォルダー送信とメール送信を同時に行うときに、メール送信の宛先だけに送られるメール送信のための機能です。詳しくは、「読み取った文書をメールで送信する」を参照してください。

目 参照

- P.21 「読み取った文書をメールで送信する」

基本的なフォルダー送信の操作手順

フォルダー送信の基本的な操作手順について説明します。

- 1 前の設定が残っていないことを確認します。**
前の設定が残っているときは [リセット] キーを押します。
- 2 メール送信の画面が表示されている場合は、フォルダー送信の画面に切り替えます。**
詳しくは、「フォルダー送信画面に切り替える」を参照してください。
- 3 必要に応じて [読み取り条件] を押し、解像度や読み取りサイズなどを設定します。**
詳しくは、「いろいろな読み取りの設定」を参照してください。



- 4 必要に応じて、読み取り濃度を調整します。**
詳しくは「読み取り濃度を調整する」を参照してください。
- 5 必要に応じて、[原稿セット方向] を押し、用紙のセット方向などを設定します。**
詳しくは、「原稿セット方向を設定する」を参照してください。
- 6 必要に応じて [ファイル形式 / ファイル名] を押し、ファイル名とファイル形式などを設定します。**
詳しくは、「ファイル形式とファイル名を設定する」を参照してください。
- 7 送信先を指定します。**
複数の送信先を指定することもできます。
詳しくは、「フォルダー送信先を指定する」を参照してください。
- 8 原稿をセットします。**
- 9 読み取りが自動で開始されない場合、[スタート] キーを押します。**
原稿を複数回に分けて読み取る場合は、続けて次の原稿をセットします。
詳しくは「複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取る」を参照してください。

2

補足

- ・送信先を複数選択したときは、送信先表示欄横の [▲] または [▼] を押すと選択した送信先が順に表示されます。
- ・送信先の選択を解除するには、解除する送信先を送信先表示欄に表示させ、[クリア / ストップ] キーを押します。宛先表一覧から選択した送信先の場合は、選択されている送信先をもう一度押して、送信先の選択を解除することもできます。
- ・原稿をセットする前に [設定確認] キーを押すと、スキャナー初期画面から設定確認画面に切り替わり、送信先などの設定を確認できます。詳しくは「設定確認画面について」を参照してください。
- ・[プレビュー] を押し、反転されている状態で読み取りを開始すると、プレビュー画面が表示されます。読み取り時の条件、ならびに送信前に文章がどのような状態で読み取られているのかを確認し、送信を中止するか継続するかを選択できます。詳しくは「プレビュー画面について」を参照してください。
- ・読み取りを中止するには [クリア / ストップ] キーを押します。
- ・フォルダー送信と蓄積を同時に行うこともできます。詳しくは「フォルダー送信と蓄積を同時に行う」を参照してください。

参考

- ・P.53 「フォルダー送信画面に切り替える」
- ・P.101 「いろいろな読み取りの設定」
- ・P.113 「読み取り濃度を調整する」
- ・P.114 「原稿セット方向を設定する」
- ・P.118 「ファイル形式とファイル名を設定する」
- ・P.54 「フォルダー送信先を指定する」
- ・P.116 「複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取る」
- ・P.12 「設定確認画面について」
- ・P.13 「プレビュー画面について」
- ・P.69 「フォルダー送信と蓄積を同時に行う」

フォルダー送信画面に切り替える

フォルダー送信画面に切り替える操作手順について説明します。

メール送信画面が表示されている場合は、[フォルダー] を押し、メール送信画面に切り替えます。



2

フォルダー送信画面が表示されます。

フォルダー送信先を指定する

フォルダー送信先の指定方法について説明します。

フォルダー送信先を指定するには、次の方法があります。

- ・本機のアドレス帳に登録されている送信先を選択する
- ・ネットワーク上の共有フォルダーに送信する
- ・FTP サーバーに送信する
- ・NetWare サーバーに送信する

2

本機のアドレス帳に登録されている送信先を選択するとき

本機のアドレス帳に登録されている送信先の選択方法について説明します。

★ 重要

- ・送信先はあらかじめ [システム初期設定] で登録しておきます。

本機のアドレス帳に登録されている送信先を選択するには、次の方法があります。

- ・宛先表一覧から送信先を選択する
- ・登録番号を入力して送信先を選択する
- ・本機のアドレス帳から送信先を検索して選択する

↓ 補足

- ・アドレス帳登録時に宛先保護コードを設定した場合は、宛先保護コード入力画面が表示されます。
- ・セキュリティの設定によっては、表示される宛先が制限される場合があります。

宛先表一覧から送信先を選択するとき

宛先表一覧から、目的の送信先を選択します。

1 宛先表一覧から、文書の送信先を押します。

選択した送信先は反転表示され、画面上部の送信先表示欄に表示されます。



2

補足

- 目的の送信先が表示されていないときは、次の方法で表示させます。
 - 送信先の頭文字を見出しから選択して表示させる
 - 宛先表一覧横の [▲] または [▼] を押して表示させる
- セキュリティの設定によっては、宛先表一覧に表示される宛先が制限される場合があります。

登録番号を入力して送信先を選択するとき

本機のアドレス帳に登録されている登録番号から送信先を選択します。

1 [登録番号] を押します。



2 送信先ごとに設定されている 5 行の登録番号をテンキーで入力します。

5 行未満の数値を入力したときは、最後に [#] キーを押します。

例) 00004 を入力する場合

[4]、[#] の順にテンキーを押します。

3 [OK] を押します

[変更] を押すと、指定した送信先を変更できます。

本機のアドレス帳から送信先を検索して選択するとき

本機のアドレス帳から送信先を検索して選択します。

1 [宛先検索] を押します。



2

2 名前またはヨミガナから検索する場合は、[名前 / ヨミガナ] を押します。

パスから検索する場合は、[フォルダー] を押します。

ソフトキーボードが表示されます。

[名前 / ヨミガナ] と [フォルダー] 検索を組み合わせた絞り込み検索もできます。

3 検索する送信先名の文字列の一部を入力します。

パスから検索する場合は、パスの文字列の一部を入力します。

4 [OK] を押します。

5 必要に応じて [詳細条件] を押し、検索条件を細かく設定します。

[詳細条件] を押すと、[名前 / ヨミガナ]、[メールアドレス]、[フォルダー] などの検索条件から検索できます。検索条件には [前方一致]、[後方一致] などの一致条件を設定できます。条件を組み合わせることで、絞り込み検索ができます。



画面はサンプル例です。表示される項目が実際のものと違う場合があります。

6 [検索実行] を押します。

検索条件に一致した宛先が表示されます。

7 送信先フォルダーネ名を選択します。

8 [OK] を押します。

 **補足**

- ・[詳細条件] で表示される、[名前 / ヨミガナ]、[メールアドレス]、[フォルダー] などは本機のアドレス帳に登録されている項目です。詳しくは『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- ・[詳細条件] で表示される一致条件は次のとおりです。
 - ・[前方一致]：入力した文字が、前方に位置する名称を検索
例) “ABC” を検索したい場合は “A” を入力
 - ・[後方一致]：入力した文字が、後方に位置する名称を検索
例) “ABC” を検索したい場合は “C” を入力
 - ・[一致]：入力した文字と一致する名称を検索
例) “ABC” を検索したい場合は “ABC” を入力
 - ・[含む]：入力した文字を含む名称を検索
例) “ABC” を検索したい場合は “A” か “B” か “C” を入力
 - ・[含まない]：入力した文字を含まない名称を検索
例) “ABC” を検索したい場合は “D” を入力
- ・[詳細] を押すと、選択した宛先の詳細情報が確認できます。
- ・検索結果は 100 件まで表示できます。

ネットワーク上の共有フォルダーに送信するとき

ネットワーク上の共有フォルダーに送信するときの送信先の指定方法について説明します。

★重要

2

- ・共有フォルダーは、あらかじめクライアントコンピューターで作成しておく必要があります。
- ・共有フォルダーへの送信に対応する OS は、Windows98/Me/2000/XP/Vista、Windows NT 4.0/Windows Server 2003、Mac OS X です。
- ・クライアントコンピューターの OS によっては、共有フォルダーにアクセス権の設定が必要です。
- ・本機では DFS(分散ファイルシステム) は使用できません。

ネットワーク上の共有フォルダーに送信するには、次の方法があります。

- ・送信先のパスを直接入力する
- ・ネットワーク上のコンピューターから送信先を参照して、パスを指定する

送信先のパスを直接入力するとき

送信先のフォルダーのパスを直接入力します。

1 [直接入力] を押します。



2 [SMB] を押します。

3 パス名入力欄右の [直接入力] を押します。

送信先フォルダーのパス入力のソフトキーボードが表示されます。

4 送信先フォルダーのパスを入力します。

例えば、コンピューター名が “desk01”、フォルダー名が “usr” の場合のパスは、
¥desk01¥usr となります。

パスの代わりに、IPv4 アドレスで指定することもできます。

5 [OK] を押します。

6 送信先の設定に応じて、クライアントコンピューターにログインするときのユーザー名を入力します。

ユーザー名入力欄右の【直接入力】を押すと、ソフトキーボードが表示されます。

7 送信先の設定に応じて、クライアントコンピューターにログインするときのパスワードを入力します。

パスワードの【直接入力】を押すと、ソフトキーボードが表示されます。

8 【接続テスト】を押します。

指定した共有フォルダーの有無を確認するために、接続テストが開始されます。

9 接続テストの結果を確認し、【確認】を押します。

10 【OK】を押します。

 **補足**

- ・フォルダーにアクセス権の設定がされている場合は、ログイン画面が表示されます。正しいユーザー名、パスワードを入力してください。
- ・パス名やユーザー名、パスワードがすでに入力されているときに、プロトコルを切り替えると、確認のメッセージが表示されます。
- ・半角13文字以上の名前をついているコンピューター名や共有フォルダーは参照できません。
- ・入力した送信先フォルダーのパスを変更する場合は、送信先表示欄の左側の【編集】を押します。正しいフォルダーのパスを入力して【OK】を押します。
- ・接続テストには、時間がかかることがあります。
- ・接続テスト中に【接続中止】を押した直後は、【接続テスト】を押せないことがあります。
- ・接続テストが成功しても、共有フォルダーに書き込み権限がない場合、またはディスク容量の残りがない場合は、フォルダー送信に失敗することがあります。
- ・送信先のパスは、本機のアドレス帳に登録できます。詳しくは「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」を参照してください。

 **参照**

- ・P.68 「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」

ネットワーク上のコンピューターから送信先を参照して、パスを指定するとき

ネットワーク上のコンピューターから送信先を参照して、パスを指定します。

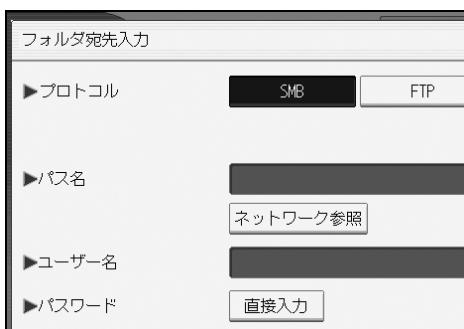
- 1 [直接入力] を押します。

2



- 2 [SMB] を押します。

- 3 パス名入力欄下の [ネットワーク参照] を押します。



ネットワーク上のドメイン、またはワークグループの一覧が表示されます。

- 4 送信先フォルダーがあるドメイン、またはワークグループを選択します。



5 送信先フォルダーがあるコンピューターを選択します。

目的のコンピューターが見つからない場合などは、[ひとつ上の階層へ] を押して、目的のコンピューターを見つけます。

選択したコンピューターに認証が必要な場合は、ログイン画面が表示されます。正しいユーザー名、パスワードを入力します。

6 送信先フォルダーを選択します。

選択したフォルダーにサブフォルダーがある場合は、サブフォルダーライブラリが表示されます。

目的のフォルダーが見つからない場合は、[ひとつ上の階層へ] を押して、目的のフォルダーを見つけます。

7 [OK] を2回押します。

補足

- ・フォルダーにアクセス権の設定がされている場合は、ログイン画面が表示されます。正しいユーザー名、パスワードを入力してください。
- ・パス名やユーザー名、パスワードがすでに入力されているときに、プロトコルを切り替えると、確認のメッセージが表示されます。
- ・半角13文字以上の名前を持つコンピューター名や共有フォルダーは参照できません。
- ・表示されるコンピューター名や共有フォルダーは最大100件までです。
- ・共有フォルダーに書き込み権限がない場合、またはディスク容量の残りがない場合は、ファイル転送に失敗することがあります。
- ・送信先のパスは、本機のアドレス帳に登録できます。詳しくは「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」を参照してください。

参考

- ・P.68 「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」

FTP サーバーに送信するとき

FTP サーバーに送信するときの送信先の指定方法について説明します。

FTP サーバーのパスを直接入力するとき

FTP サーバーのフォルダーのパスを直接入力します。

2

- 1 [直接入力] を押します。



- 2 [FTP] を押します。

- 3 サーバー名入力欄右の [直接入力] を押します。

送信先フォルダーがあるサーバー名入力のソフトキーボードが表示されます。

- 4 サーバー名を入力します。

IP v4 アドレスを入力することもできます。

- 5 パス名入力欄右の [直接入力] を押します。

- 6 送信先フォルダーのパスを入力します。

例えば、フォルダー名が “user” のサブフォルダー名 “lib” に送信する場合のパスは、
user/lib となります。

- 7 [OK] を押します。

- 8 送信先の設定に応じて、ユーザー名を入力します。

ユーザー名入力欄右の [直接入力] を押すと、ソフトキーボードが表示されます。

- 9 送信先の設定に応じて、パスワードを入力します。

パスワードの右の [直接入力] を押すと、ソフトキーボードが表示されます。

- 10 日本語を入力した場合は、送信先 FTP サーバーに応じて [US-ASCII] 、
[Shift-JIS] 、 [EUC-JP] のいずれかの日本語文字コードを選択します。

- 11 [システム初期設定] で設定されているポート番号を変更する場合は、
ポート番号表示欄右の [変更] を押します。テンキーでポート番号を入
力して [#] キーを押します。

12 [接続テスト] を押します。

指定したフォルダーの有無を確認するために、接続テストが開始されます。

13 接続テストの結果を確認し、[確認] を押します。**14** [OK] を押します。 補足

- ・パス名やユーザー名、パスワードがすでに入力されているときに、プロトコルを切り替えると、確認のメッセージが表示されます。
- ・接続テストには、時間がかかることがあります。
- ・接続テスト中に [接続中止] を押した直後は、[接続テスト] を押せないことがあります。
- ・入力した送信先フォルダーのパスを変更する場合は、送信先表示欄の左側の [編集] を押します。正しいフォルダーのパスを入力して [OK] を押します。
- ・送信先のパスは、本機のアドレス帳に登録できます。詳しくは「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」を参照してください。

 参照

- ・P.68 「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」

NetWare サーバーに送信するとき

NetWare サーバーに送信するときの送信先の指定方法について説明します。

送信先の NetWare サーバーのフォルダーは、お使いの NetWare 環境に応じて、NDS ツリーまたは NetWare バインダリサーバーから指定できます。お使いの NetWare 環境については、管理者へお問い合わせください。

2 NetWare サーバーに送信するには、次の方法があります。

- NetWare サーバーの送信先パスを直接入力する
- NetWare サーバーから送信先を参照して、パスを指定する

NetWare サーバーのパスを直接入力するとき

NetWare サーバーの送信先フォルダーのパスを直接入力します。

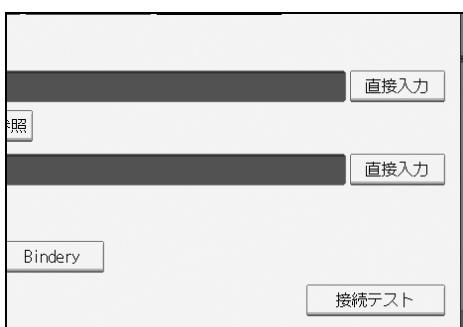
1 [直接入力] を押します。



2 [NCP] を押します。

3 接続種別を選択します。NDS ツリーからフォルダーを指定する場合は [NDS] を選択します。NetWare のバインダリサーバーからフォルダーを指定する場合は、[Bindery] を押します。

4 パス名入力欄右の [直接入力] を押します。



送信先フォルダーのパス入力のソフトキーボードが表示されます。

5 送信先フォルダーのパスを入力します。

接続種別で [NDS] を選択したとき、NDS ツリー名が "Tree"、ボリュームの存在するコンテキスト名が "context"、ボリューム名が "volume"、フォルダーネームが "folder" である場合のパスは "¥tree¥volume.context¥folder" となります。

接続種別で [Bindery] を選択したとき、NetWare サーバー名が "server"、ボリューム名が "volume"、フォルダーネームが "folder" である場合のパスは、"¥server¥volume¥folder" となります。

6 [OK] を押します。**7** NDS ツリーまたは NetWare のバインダリサーバーにログインするユーザー名を入力します。

ユーザー名入力欄右の [直接入力] を押すと、ソフトキーボードが表示されます。接続種別で [NDS] を選択したときは、ユーザー名に続けてユーザーオブジェクトの存在するコンテキスト名を入力します。ユーザー名が "user"、コンテキスト名が "context" である場合の、入力するユーザー名は "user.context" になります。

8 ログインするユーザーにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。

[パスワード] の [直接入力] を押すと、ソフトキーボードが表示されます。

9 [接続テスト] を押します。

指定したフォルダーの有無を確認するために、接続テストが開始されます。

10 接続テストの結果を確認し、[確認] を押します。**11** [OK] を押します。 補足

- ・パス名やユーザー名、パスワードがすでに入力されているときに、プロトコルを切り替えると、確認のメッセージが表示されます。
- ・入力した送信先フォルダーのパスを変更する場合は、送信先表示欄の左側の [編集] を押します。正しいフォルダーのパスを入力して [OK] を押します。
- ・読み取り権限のないフォルダーには接続できません。
- ・接続テストには、時間がかかることがあります。
- ・接続テスト中に [接続中止] を押した直後は、[接続テスト] を押せないことがあります。
- ・接続テストが成功しても、フォルダーに書き込み権限がない場合、またはディスク容量の残りがない場合は、フォルダー送信に失敗することがあります。
- ・送信先のパスは、本機のアドレス帳に登録できます。詳しくは「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」を参照してください。

 参照

- ・P.68 「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」

NetWare サーバーから送信先を参照して、パスを指定するとき

NDS ツリーまたは NetWare のバインダリサーバーから送信先のフォルダーを参照して、パスを指定します。

- [直接入力] を押します。

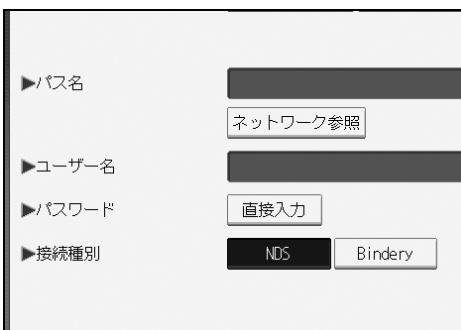
2



- [NCP] を押します

- 接続種別を選択します。NDS ツリーからフォルダーを指定する場合は [NDS] を選択します。NetWare のバインダリサーバーからフォルダーを指定する場合は、[Bindery] を押します。

- パス名入力欄下の [ネットワーク参照] を押します。



接続種別で [NDS] を選択した場合は NDS ツリーの一覧が表示されます。
接続種別で [Bindery] を選択した場合は NetWare のバインダリサーバーの一覧が表示されます。

- NDS ツリーまたは NetWare のバインダリサーバーの階層をたどり、送信するフォルダーを探します。

目的のフォルダーが見つからない場合は、[ひとつ上の階層へ] を押して、目的のフォルダーを見つけます。

- 送信先フォルダーを選択します。

- [OK] を 2 回押します。

補足

- ・パス名やユーザー名、パスワードがすでに入力されているときに、プロトコルを切り替えると、確認のメッセージが表示されます。
- ・読み取り権限の無いフォルダーは表示されません。
- ・NDSツリーまたはNetWareのバインダリサーバーで使用する言語が本機と異なると、NDSツリーまたはNetWareのバインダリサーバーの一覧が正しく表示されない場合があります。
- ・一覧で表示されるのは最大で100件です。
- ・選択したNDSツリーまたはNetWareのバインダリサーバーに認証が必要な場合は、ログイン画面が表示されます。NDSツリーまたはNetWareのバインダリサーバーにログインするユーザー名とパスワードを入力します。NDSツリーにログインするときは、ユーザー名に続けてユーザーオブジェクトの存在するコンテキスト名を入力します。ユーザー名が"user"、コンテキスト名が"context"である場合の、入力するユーザー名は"user.context"になります。
- ・送信先フォルダーに書き込み権限がない場合、またはディスク容量の残りがない場合は、フォルダー送信に失敗することがあります。
- ・送信先のパスは、本機のアドレス帳に登録できます。詳しくは「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」を参照してください。

参照

- ・P.68 「指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する」

指定した送信先のパスをアドレス帳に登録する

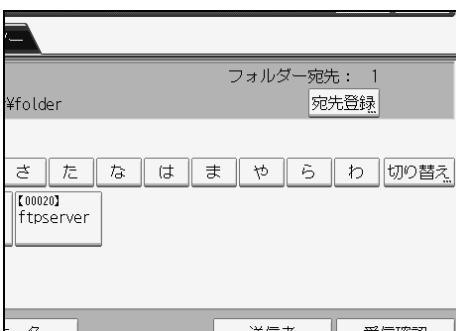
直接入力した送信先のパスやネットワークから参照した送信先のパスを、本機のアドレス帳に登録する操作手順について説明します。

1 登録する送信先を送信先表示欄に表示させます

2



2 [宛先登録] を押します。



3 [登録情報] を押し、名前やヨミガナなどの登録情報を設定します。

登録情報の設定について詳しくは、『初期設定編』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

4 [設定] を押します。

↓ 補足

- セキュリティの設定によっては[宛先登録]が表示されず、登録できない場合があります。

フォルダー送信と蓄積を同時に使う

フォルダー送信と蓄積を同時に使う操作手順について説明します。

1 [文書蓄積] を押します。



2

2 [蓄積 + 送信] が反転表示されていることを確認します。

3 必要に応じて、[ユーザー名]、[文書名]、[パスワード]などの文書情報を設定します。

詳しくは、「文書情報を設定する」を参照してください。

4 [OK] を押します。

5 フォルダー送信の設定をして送信します。

フォルダー送信する手順について詳しくは「基本的なフォルダー送信の操作手順」を参照してください。

補足

- セキュリティの設定によっては、[ユーザー名] が [アクセス権] と表示される場合があります。[アクセス権] の設定手順について詳しくは、管理者にお問い合わせください。
- 蓄積した文書は、再送信することができます。再送信する場合は、[蓄積文書指定] 画面で文書を選択してから送信してください。詳しくは、「蓄積文書を送信する」を参照してください。

参考

- P.75 「文書情報を設定する」
- P.51 「基本的なフォルダー送信の操作手順」
- P.85 「蓄積文書を送信する」

2. 読み取った文書をフォルダーに送信する

2

3. スキャナー機能を使って文書を蓄積する

スキャナー機能を使って読み取った文書を本機に蓄積します。スキャナー機能を使って蓄積した文書は、あとからメール送信したり、フォルダー送信したりすることができます。

蓄積をする前に

3

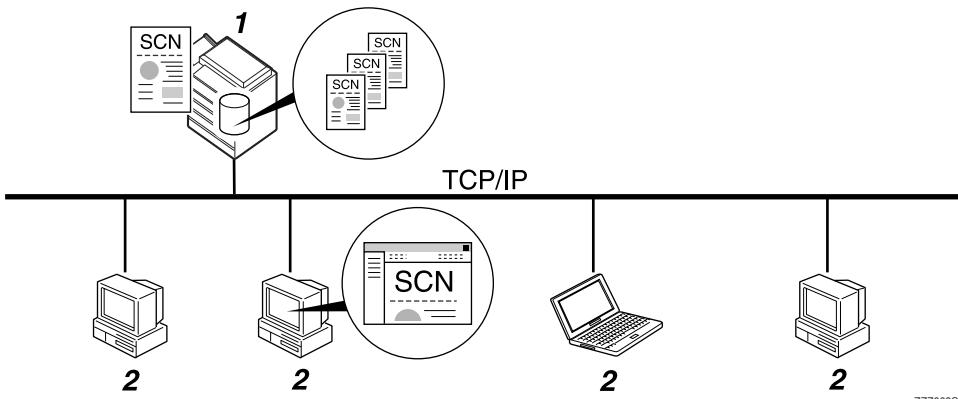
スキャナー機能を使った蓄積の概要や注意事項などを説明します。

スキャナー機能を使った蓄積の概要

スキャナー機能を使った蓄積の概念について説明します。

★重要

- ・蓄積文書は、文書ごとにパスワードの設定が可能です。蓄積文書にはパスワードを設定するなど、不正なアクセスを防止する手段の検討をおすすめします。
- ・万一、本体のハードディスクに不具合が発生した場合、記録保存したデータが消失することがあります。ハードディスクを重要なデータの記録保存には使用しないことをおすすめします。お客様のデータの消失による損害につきましては、当社は一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。



ZZZ008S

1 本機

読み取った文書を本機のハードディスクに蓄積します。蓄積した文書はメール送信、フォルダー送信することができます。

2 クライアントコンピューター

Web Image Monitor から、ネットワーク経由で本機の蓄積文書を閲覧、ダウンロード、送信、削除できます。Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

3. スキャナー機能を使って文書を蓄積する

補足

- ・蓄積した文書は、一定日数経過すると自動的に消去されるように設定されています。設定、変更のしかたについては、『初期設定編』「システム初期設定」「管理者用設定」を参照してください。
- ・スキャナー機能で蓄積した文書は、本機の操作部からは印刷できません。印刷は文書をクライアントコンピューターで引き取ったあとに行ってください。
- ・送信と蓄積を同時に行うこともできます。詳しくは「メール送信と蓄積を同時に行う」、「フォルダー送信と蓄積を同時に行う」を参照してください。

参照

3

- ・P.42 「メール送信と蓄積を同時に行う」
- ・P.69 「フォルダー送信と蓄積を同時に行う」

基本的な蓄積の操作手順

蓄積の基本的な操作手順について説明します。

- 1 前の設定が残っていないことを確認します。**
前の設定が残っているときは [リセット] キーを押します。
- 2 [文書蓄積] を押します。**



3

- 3 [蓄積のみ] を押します。**
- 4 必要に応じて、[ユーザー名]、[文書名]、[パスワード]などの文書情報を設定します。**
詳しくは、「文書情報を設定する」を参照してください。
- 5 [OK] を押します。**
- 6 必要に応じて [読み取り条件] を押し、解像度や読み取りサイズなどを設定します。**
詳しくは、「いろいろな読み取りの設定」を参照してください。



- 7 必要に応じて、読み取り濃度を調整します。**
詳しくは「読み取り濃度を調整する」を参照してください。
- 8 必要に応じて [原稿セット方向] を押し、用紙のセット方向などを設定します。**
詳しくは、「原稿セット方向を設定する」を参照してください。

9 原稿をセットします。

10 読み取りが自動で開始されない場合、[スタート] キーを押します。

原稿を複数回に分けて読み取る場合は、続けて次の原稿をセットします。

詳しくは「複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取る」を参照してください。

補足

- セキュリティの設定によっては、[ユーザー名] が [アクセス権] と表示される場合があります。[アクセス権] の設定手順について詳しくは、管理者にお問い合わせください。
- [蓄積 + 送信] を押すと、蓄積と送信を同時にを行うことができます。詳しくは、「メール送信と蓄積を同時に使う」、「フォルダー送信と蓄積を同時に使う」を参照してください。
- 送信先または送信者が 1 件でも選択されていると、[蓄積のみ] は押せません。
- 読み取りを中止するには [クリア / ストップ] キーを押します。

参考

- P.101 「いろいろな読み取りの設定」
- P.113 「読み取り濃度を調整する」
- P.114 「原稿セット方向を設定する」
- P.75 「文書情報を設定する」
- P.116 「複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取る」
- P.42 「メール送信と蓄積を同時に使う」
- P.69 「フォルダー送信と蓄積を同時に使う」

文書情報を設定する

蓄積する文書にユーザー名、文書名、パスワードの文書情報を設定します。

文書情報を設定しておくことにより、ユーザー名や文書名で目的の文書を検索したり、蓄積した文書を他の人が操作できないようにパスワードで管理したりできます。

ユーザー名を設定する

文書にユーザー名を設定します。

3

1 [文書蓄積] を押します。



文書蓄積画面に切り替わります。

2 [ユーザー名] を押します。

ユーザー名一覧が表示されます。

3 設定するユーザー名を押します。

ここに表示されている一覧は、[システム初期設定] の [管理者用設定] で登録したアドレス帳の内容です。ここに表示されていない名称を設定するときは、[登録外文字列] を押してユーザー名を入力します。

4 [OK] を2回押します。

補足

- セキュリティの設定によっては、[ユーザー名] が [アクセス権] と表示される場合があります。[アクセス権] の設定手順について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

文書名を設定する

蓄積した文書の文書名を変更します。

蓄積した文書には、文字列「SCAN」と4桁の連番数字で作られる文書名が付与されます。

- 例：SCAN0001

この文書名を変更することができます。

1 [文書蓄積] を押します。

3



文書蓄積画面に切り替わります。

2 [文書名] を押します。

文書名入力のソフトキーボードが表示されます。

3 文書名を変更します。

4 [OK] を2回押します。

▼ 補足

- 文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。

パスワードを設定する

文書にパスワードを設定します。

★重要

- ・設定したパスワードは忘れないようにしてください。もしパスワードを忘れてしまったときは、本機の管理担当者の方にお問い合わせください。

文書にパスワードを設定すると、パスワードを知っている人だけが文書を閲覧できるようになります。

3

1 [文書蓄積] を押します。



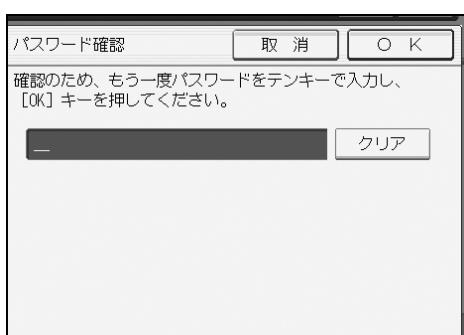
文書蓄積画面に切り替わります。

2 [パスワード] を押します。

3 テンキーで4桁～8桁の数字を入力します。

4 [OK] を押します。

5 入力した数字と同じ数字を再度、テンキーで入力します。



6 [OK] を2回押します。

蓄積した文書の一覧表示について

蓄積した文書の一覧表示について説明します。

蓄積した文書の消去や文書情報の変更は、蓄積文書の一覧画面で行います。

一覧画面について

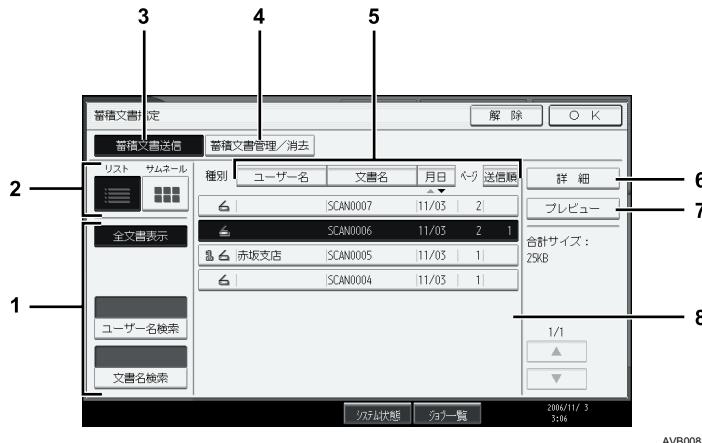
蓄積した文書の一覧画面の構成について説明します。

3

蓄積文書の一覧画面は、初期画面で【蓄積文書指定】を押すと表示されます。

表示されているそれぞれの機能項目は、選択キーになっています。選択キーを押すことによって、項目を選んだり、指定したりすることができます。

機能項目が選択、または指定されたとき、のように反転表示されます。機能項目が選択、または指定できないときは、のようにうすく表示されます。



1 文書検索用キー

ユーザー名または文書名で目的の文書を検索する画面と、すべての文書が表示される画面とを切り替えます。

2 リスト / サムネール

蓄積文書の一覧をリスト表示とサムネール表示に切り替えます。

3 【蓄積文書送信】

蓄積されている文書をメール送信するときに押します。

4 【蓄積文書管理 / 消去】

蓄積した文書を消去したり、文書情報を変更するときに押します。

5 並べ替え用キー

選択した項目で文書を並べ替えます。同じ項目をもう一度押すと、昇順と降順が切り替わります。配信順は常に昇順です。

6 【詳細】

選択した文書の詳細情報を表示します。

7 [プレビュー]

選択した文書のプレビューを表示します。詳しくは「一覧画面から蓄積文書を確認する」を参照してください。

8 蓄積文書の一覧

蓄積されている文書の一覧が表示されます。

目的の文書が表示されていないときは、[▲] または [▼] を押して表示を切り替えます。

パスワードが設定されている文書には、ユーザー名の左横にカギマーク (⌚) が表示されます。

↓ 補足

- 蓄積文書の原稿サイズが 457mm×609mm、または A2 より大きい場合、蓄積文書の一覧をサムネール表示できません。

- セキュリティの設定によっては、表示される文書が制限される場合があります。

- スキャナー以外の機能から蓄積した文書は、ここでは表示されません。[ドキュメントボックス] キーを押して表示させます。

目 参照

- P.82 「一覧画面から蓄積文書を確認する」

一覧画面から目的の文書を検索する

蓄積されている文書の中からユーザー名または文書名を使って目的の文書を検索します。一覧画面から目的の文書を検索するには、次の方法があります。

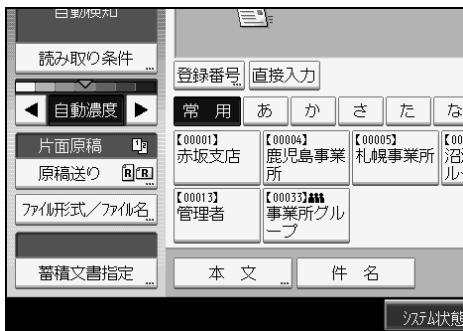
- ・ユーザー名で検索する
- ・文書名で検索する

ユーザー名で検索する

蓄積されている文書をユーザー名で検索します。

3

1 [蓄積文書指定] を押します。



2 [ユーザー名検索] を押します。

3 検索対象にするユーザー名を押します。

ここに表示されている一覧は、[システム初期設定] の [管理者用設定] で登録したアドレス帳の内容です。ここに表示されていない名称を設定するときは、[登録外文字列] を押してユーザー名を入力します。

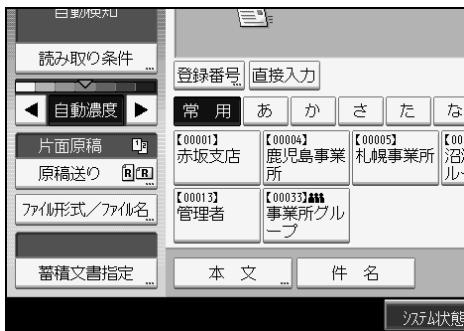
4 [OK] を押します。

検索が開始され、指定したユーザー名で蓄積されている文書だけが表示されます。

文書名で検索する

蓄積されている文書を文書名で検索します。

- [蓄積文書指定] を押します。



3

- [文書名検索] を押します。

文書名検索のソフトキーボードが表示されます。

- 検索対象にする文書名を入力します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。

- [OK] を押します。

検索が開始され、入力した文字列で始まる文書名の文書だけが表示されます。

蓄積文書を確認する

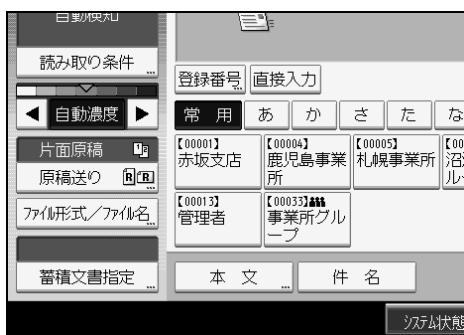
本機やクライアントコンピューターから、蓄積した文書を表示して確認することができます。

一覧画面から蓄積文書を確認する

一覧画面から、選択した蓄積文書のプレビューを表示します。

3

1 [蓄積文書指定] を押します。



一覧画面が表示されます。

一覧画面について詳しくは「一覧画面について」を参照してください。

2 蓄積文書の一覧から、確認する文書を選択します。

複数の文書を指定することもできます。

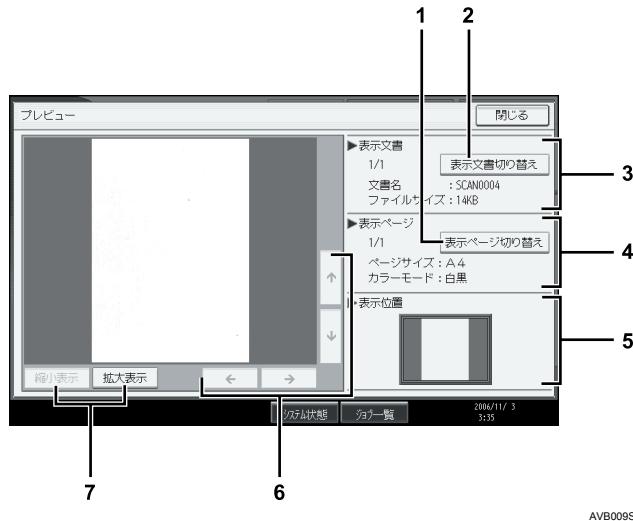
3 [プレビュー] を押します。

蓄積文書のプレビュー画面が表示されます。

補足

- ・パスワードが設定されている蓄積文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力して [実行] を押すと、文書が選択されます。

蓄積文書のプレビュー画面



AVB009S

1 [表示ページ切り替え]

選択した文書の表示ページを変更します。

2 [表示文書切り替え]

表示する文書を変更します。

3 表示文書

文書名、ファイルサイズが表示されます。

4 表示ページ

表示ページ番号と総ページ数、ページサイズ、カラー モードが表示されます。

5 表示位置

画像を拡大したときに、文書に対して表示されている位置が表示されます。

6 [←] [→] [↑] [↓]

表示させる部分を移動できます。

7 [縮小表示]、[拡大表示]

文書を縮小または拡大して表示できます。

補足

- 原稿サイズが 457mm×609mm、または A2 より大きい場合、プレビュー機能は利用できません。

参照

- P.78 「一覧画面について」

クライアントコンピューターから蓄積文書を確認する

Web Image Monitor を使うと、本機に蓄積した文書をクライアントコンピューター側で表示させることができます。

★重要

- クライアントコンピューターから蓄積文書を確認するときは、本機の IP アドレスが設定されている必要があります。

3

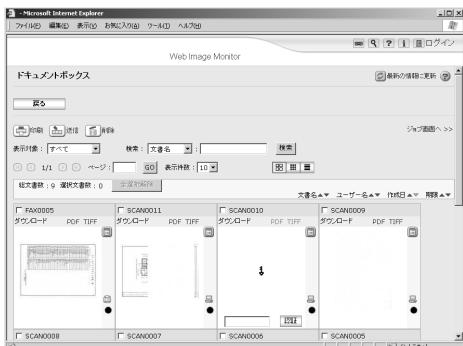
コピー機能、ドキュメントボックス機能、プリンター機能を使用して蓄積した文書も確認できます。

説明で使用している画面はサンプル例です。お使いの機種や環境によっては、表示される項目が実際のものと違う場合があります。

Web Image Monitor での表示

Web Image Monitor を使うと、蓄積した文書をクライアントコンピューター上で表示させることができます。

蓄積した文書は、Web Image Monitor では次のように表示されます。



画面はサンプル例です。表示される項目が実際のものと違う場合があります。

クライアントコンピューターから Web ブラウザのアドレス入力欄に、<http://>（本機の IP アドレス）/を入力すると、Web Image Monitor のトップ画面が表示されます。

↓ 補足

- 蓄積文書をダウンロードすることもできます。
- Web Image Monitor は、同一ネットワーク環境での使用を推奨します。
- Web Image Monitor を使った蓄積文書の表示・ダウンロード機能については、『コピー機能 / ドキュメントボックス機能編』「ドキュメントボックスの文書を Web Image Monitor で表示する」「文書をダウンロードする」を参照してください。
- Web Image Monitor を使用するための設定については、『ネットワークガイド』を参照してください。
- Web Image Monitor を使った蓄積文書管理機能の詳細は、Web ブラウザに表示された各画面右上の [ヘルプ] をクリックして表示させてください。

蓄積文書を送信する

蓄積されている文書の送信方法について説明します。

蓄積文書は、後からメール送信、フォルダー送信することができます。

補足

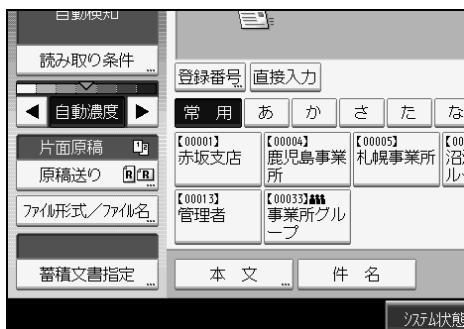
- 蓄積文書をメール送信するには、以下の2種類の方法があります。どちらで送信するかは「スキャナー初期設定」の設定によります。詳しくは『初期設定編』「スキャナー初期設定」を参照してください。
- URLアドレスをメール送信する。
「スキャナー初期設定」の「蓄積文書メール内容」で「URLリンク」を選択します。ネットワーク環境に制限があり、メールに文書を添付できない場合などに便利です。
- 文書を添付してメール送信する。
「スキャナー初期設定」の「蓄積文書メール内容」で「文書」を選択します。

3

蓄積されている文書を送信する

ここでは、蓄積文書を送信する大まかな手順について説明します。蓄積文書の選択方法や送信の詳しい設定については、それぞれの参照先で確認してください。

1 [蓄積文書指定] を押します。



蓄積文書の一覧画面が表示されます。

2 送信する文書を選択します。

複数の文書を選択できます。

複数の文書を選択したときは、選択した順に送信されます。

[送信順] を押すと、選択した文書だけが送信順に表示されます。

蓄積文書の選択方法について詳しくは「一覧画面から目的の文書を検索する」を参照してください。

3 [OK] を押します。

4 必要に応じてメール送信画面、フォルダー送信画面へ切り替えます。

画面の切り替えについて詳しくは、「メール送信画面に切り替える」、「フォルダー送信画面に切り替える」を参照してください。

5 送信先アドレスの指定など、送信するための設定をします。

メール送信、フォルダー送信のそれぞれの操作手順については「基本的なメール送信の操作手順」、「基本的なフォルダー送信の操作手順」を参照してください。

6 [スタート] キーを押します。

蓄積文書が送信されます。

 **補足**

- ・パスワードが設定されている蓄積文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力して【実行】を押すと、文書が選択されます。
- ・URL アドレスをメール送信した場合、送信されたメールから URL アドレスをクリックして蓄積文書を確認できます。詳しくは、「URL アドレスをメール送信する」を参照してください。

 **参考**

- ・P.24 「基本的なメール送信の操作手順」
- ・P.51 「基本的なフォルダー送信の操作手順」
- ・P.43 「URL アドレスをメール送信する」
- ・P.80 「一覧画面から目的の文書を検索する」
- ・P.27 「メール送信画面に切り替える」
- ・P.53 「フォルダー送信画面に切り替える」

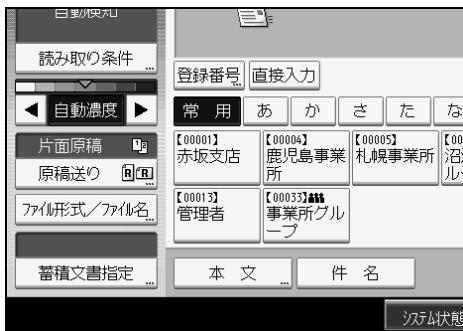
蓄積文書の管理

蓄積されている文書を消去したり、文書情報をあとから変更する操作手順について説明します。

蓄積文書を消去する

蓄積されている文書が不要になった場合に、文書を消去する操作手順について説明します。

- 1 [蓄積文書指定] を押します。**



蓄積文書の一覧画面が表示されます。

- 2 [蓄積文書管理 / 消去] を押します。**



[蓄積文書管理 / 消去] 画面が表示されます。

- 3 消去する文書を選択します。**

パスワードが指定されている蓄積文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力し、[実行] を押してください。

- 4 [文書消去] を押します。**

文書消去の確認メッセージが表示されます。

- 5 [消去する] を押します。**

3

3. スキャナー機能を使って文書を蓄積する

補足

- ・送信待機中の文書は消去できません。
- ・クライアントコンピューターから Web Image Monitor を使って本機に蓄積されている文書を消去することもできます。Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

蓄積文書の文書情報を変更する

蓄積されている文書のユーザー名、文書名、パスワードを変更します。

3

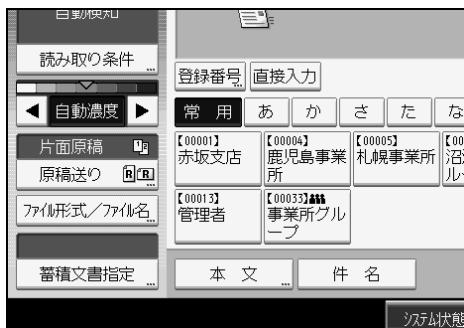
補足

- ・送信待機中の文書の文書情報は変更できません。

ユーザー名を変更する

蓄積されている文書のユーザー名を変更します。

1 [蓄積文書指定] を押します。



蓄積文書の一覧画面が表示されます。

2 [蓄積文書管理 / 消去] を押します。



3 文書情報を変更する文書を選択します。

パスワードが設定されている蓄積文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力し、[実行] を押してください。

4 [ユーザー名変更] を押します。

5 新しいユーザー名を入力します。

ここに表示されている一覧は、[システム初期設定] の [管理者用設定] で登録したアドレス帳の内容です。ここに表示されていない名称を設定するときは、[登録外文字列] を押してユーザー名を入力します。

6 [OK] を押します。

補足

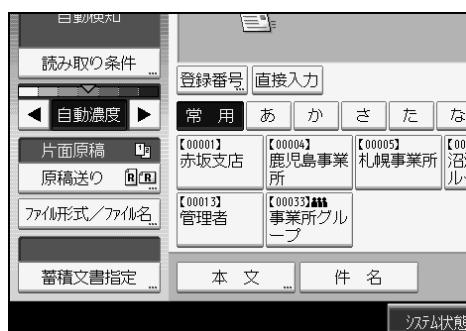
- ・クライアントコンピューターから Web Image Monitor を使って、本機に蓄積されている文書のユーザー名を変更することもできます。Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- ・セキュリティの設定によっては、[ユーザー名変更] が [アクセス権変更] と表示される場合があります。[アクセス権変更] の設定手順について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

3

文書名を変更する

蓄積されている文書の文書名を変更します。

1 [蓄積文書指定] を押します。



蓄積文書の一覧画面が表示されます。

2 [蓄積文書管理 / 消去] を押します。



3 文書情報を変更する文書を選択します。

パスワードが設定されている蓄積文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力し、[実行] を押してください。

4 [文書名変更] を押します。

5 文書名を変更します。

6 [OK] を押します。

7 変更した文書情報を確認し、[閉じる] を押します。

3

補足

- ・文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。
- ・クライアントコンピューターから Web Image Monitor を使って本機に蓄積されている文書の文書名を変更することもできます。Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

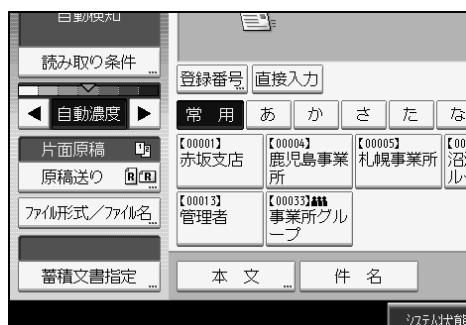
パスワードを変更する

蓄積されている文書のパスワードを変更します。

★重要

- ・設定したパスワードは忘れないようにしてください。もしパスワードを忘れてしまったときは、本機の管理担当者の方にお問い合わせください。

1 [蓄積文書指定] を押します。



蓄積文書の一覧画面が表示されます。

2 [蓄積文書管理 / 消去] を押します。

3 文書情報を変更する文書を選択します。

パスワードが設定されている蓄積文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力し、[実行] を押してください。

4 [パスワード変更] を押します。

5 テンキーで、新しいパスワードを4桁～8桁の数字で入力します。

6 [OK] を押します。

7 入力した数字と同じ数字を再度、テンキーで入力します。

8 [OK] を押します。

↓ 補足

- ・クライアントコンピューターから Web Image Monitor を使って本機に蓄積されている文書のパスワードを変更することもできます。Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

4. ネットワーク TWAIN スキャナー で文書を読み取る

クライアントコンピューターから TWAIN ドライバーを使い、ネットワーク経由で本機の原稿を読み取ります。

TWAIN スキャナーを使用するまえに

TWAIN スキャナーを使用するために必要な準備や操作などについて説明します。

★重要

- ・TWAIN スキャナーを利用するには、クライアントコンピューターに TWAIN ドライバーをインストールしておく必要があります。TWAIN ドライバーは付属の CD-ROM に収録されています。TWAIN ドライバーのインストールについては、「付属 CD-ROM から TWAIN ドライバーをインストールする」を参照してください。
- ・TWAIN スキャナーを利用するには、イメージングなどの TWAIN 対応アプリケーションがクライアントコンピューターにインストールされている必要があります。

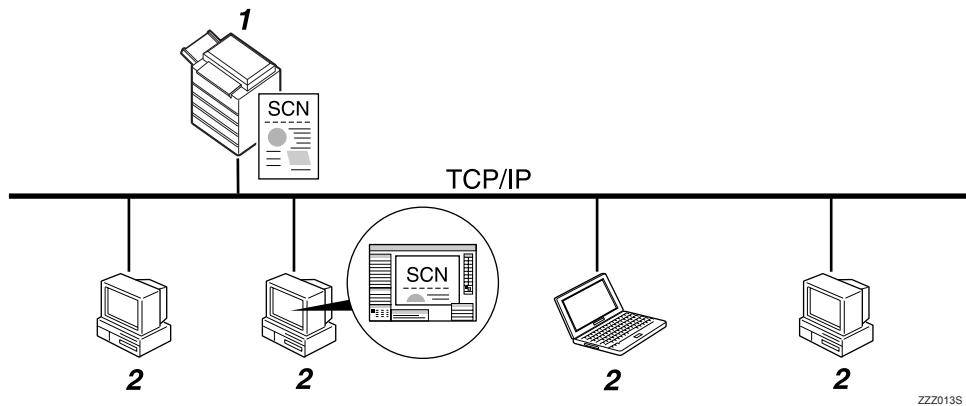
□ 参照

- ・P.96 「付属 CD-ROM から TWAIN ドライバーをインストールする」

TWAIN スキャナーの概要

TWAIN スキャナーを使った読み取りの概念について説明します。

TWAIN スキャナー機能を利用すると、本機を複数の PC で共有できるため、スキャナー専用 PC を用意したり、使用する PC ごとにスキャナーを接続しなおすなどの手間がいりません。



ZZZ013S

1 本機

クライアントコンピューターからの指示を受信し、原稿を読み取ります。

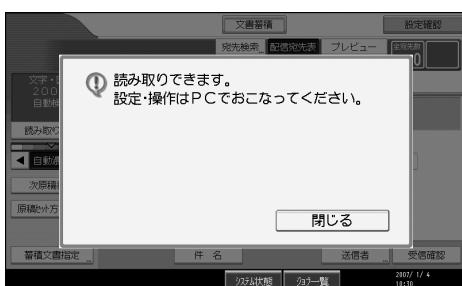
読み取った文書をクライアントコンピューターにネットワーク経由で送信します。

2 クライアントコンピューター

イメージングなどの TWAIN 対応アプリケーションから、スキャナーの設定、操作をします。本機で読み取られた文書を受信し、TWAIN 対応アプリケーションで表示します。

補足

- ・TWAIN スキャナーとして使用するときは、操作部の [スキャナー] キーを押す必要はありません。TWAIN ドライバーを使いクライアントコンピューターで原稿を読み取ると、自動的に画面が切り替わります。



TWAIN スキャナー以外の機能を使うときは [閉じる] を押して操作します。

TWAIN スキャナーを使うための準備の流れ

本機を TWAIN スキャナーとして使用するための準備や設定について説明します。

★ 重要

- ・TWAIN スキャナーを利用するには、イメージングなどの TWAIN 対応アプリケーションが クライアントコンピューターにインストールされている必要があります。

1 ネットワーク環境に接続します。

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブル、または無線 LAN(IEEE 802.11b) で 接続します。

2 [システム初期設定] でネットワークの設定をします。

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブルで接続したときは、主に次の項目 を設定します。詳しくは、『初期設定編』「ネットワークの設定」を参照してください。

- ・本体 IPv4 アドレスとサブネットマスクを設定します。
- ・[有効プロトコル] で [IPv4] を有効にします。

3 クライアントコンピューターにTWAIN ドライバーをインストールします。

TWAIN ドライバーのインストールについては、「付属 CD-ROM から TWAIN ドライバをインストールする」を参照してください。

↓ 補足

- ・無線 LAN(IEEE 802.11b) でネットワーク環境に接続するには、拡張無線 LAN ボードが必要です。詳しくは『ネットワークガイド』を参照してください。
- ・[システム初期設定] については、『初期設定編』「システム初期設定」を参照してください。
- ・ネットワークの環境によって、[システム初期設定] で設定する項目は異なります。ネットワークの設定について詳しくは、『初期設定編』「ネットワークの設定」を参照してください。

参考

- ・P.96 「付属 CD-ROM から TWAIN ドライバーをインストールする」

付属 CD-ROM から TWAIN ドライバーをインストールする

付属の CD-ROM に収録されてる TWAIN ドライバーのインストールについて説明します。TWAIN スキャナーを使用するには、TWAIN ドライバーがクライアントコンピューターにインストールされている必要があります。

- 1** Windows が起動していることを確認し、付属の CD-ROM をクライアントコンピューターの CD-ROM ドライブにセットします。
インストーラーが起動し、ドライバー & ユーティリティー画面が表示されます。
- 2** [TWAIN ドライバー (スキャナードライバー)] をクリックします。
- 3** TWAIN ドライバーのインストーラーが起動します。メッセージにしたがって操作してください。

▼ 補足

- ・インストールを始める前に TWAIN ドライバーの動作環境を確認してください。詳しい動作環境については、「CD-ROM 収録ソフトウェア」を参照してください。
- ・インストールはオートランプログラムを使用して行います。オートランプログラムについて詳しくは「オートランプログラムについて」を参照してください。
- ・インストーラーが自動的に起動しない場合は、「オートランプログラムについて」を参照してください。
- ・インストールが終了したときに、クライアントコンピューターを再起動するように指示するメッセージが表示されることがあります。この場合は、クライアントコンピューターを再起動してから操作を続けてください。
- ・インストールが終わると、スタートメニューの「プログラム」または「すべてのプログラム」フォルダーにお使いの機器名のフォルダーが作成され、ここからヘルプを表示できます。
- ・「Readme.txt」には、TWAIN スキャナーを使う上での注意事項などが書かれていますので、使用する前に必ずお読みください。

原稿を読み取る

ここでは、ネットワーク TWAIN スキャナーで原稿を読み取る操作を説明します。本書では Windows 2000 に付属しているイメージングを使った例で説明しています。他の OS、または他のアプリケーションをご利用のときは、アプリケーション使用説明書を参照してください。

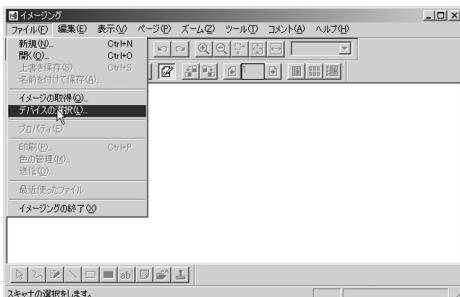
1 イメージングを起動し、スキャナードライバーを選択します。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントし、[アクセサリ] から [イメージング] をクリックします。



4

- 2 [ファイル] メニューの [デバイスの選択] をクリックします。



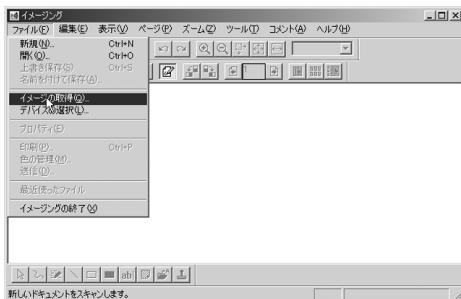
既にスキャナーが選択されていれば次に変えるまでスキャナー選択は必要ありません。手順 4 に進んでください。

- 3 [TWAIN スキャナ] ボックス内の [A0 Scanner WG2/WG3] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックします。

- 2 スキャナーに原稿をセットします。

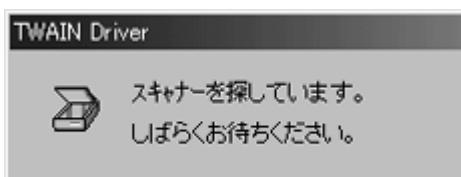
3 読み取り条件を設定します。

- 1 [ファイル] メニューの [イメージの取得] をクリックします。



TWAIN ドライバーが起動し、次のメッセージが表示されます。

4



しばらくすると、TWAIN ドライバーでスキャナーを操作するダイアログが表示されます。このダイアログを「スキャナーコントロールダイアログ」と呼びます。

補足

- ・タイトルバーには、現在接続されているスキャナー名が表示されます。ネットワーク上に複数の同機種スキャナーがあるときは、スキャナー名が目的のスキャナーかどうか確認します。目的のスキャナーと異なる場合は [スキャナー選択] をクリックし、選択し直してください。
- ・目的のスキャナーがリストに表示されないときは、スキャナーが正しくネットワークに接続され、IP アドレスが設定されているかどうか確認してください。それでもリストに表示されない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

- 2 原稿の種類や読み取る目的に応じて、[読み取りモード] のアイコンをクリックします。

- ・「標準」は文字を主体とした標準的な原稿の読み取りに適しています。
- ・「写真」は写真や濃淡のある図版などが含まれる原稿の読み取りに適しています。
- ・「OCR」は読み取ったあと OCR（自動文字認識）アプリケーションで変換処理を行う場合に適しています。
- ・「ファイリング」はファイリングアプリケーションなどで利用する場合に適しています。

補足

- ・[詳細] をクリックすると「詳細画面」に切り替わり、より詳しい条件設定を行なうことができます。「詳細画面」についての詳しい説明は、TWAIN ドライバーのヘルプを参照してください。

- 3 原稿のセット場所と方向に合わせて、[原稿] グループの設定を変更します。

■ 原稿の特定の領域だけを読み取りたいとき

領域を指定しないときは、[読み取りサイズ] ボックスで指定したサイズで読み取られます。

1 [プレビュー] をクリックします。

セットした原稿が読み取られ、[プレビュー] ダイアログが表示されます。プレビューの読み取り領域は、一点鎖線で囲まれて表示されます。



4

2 一点鎖線の辺や頂点をドラッグし、読み取り領域を変更します。

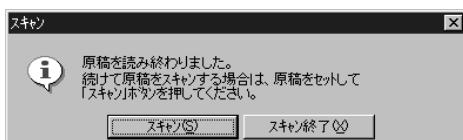
新たに領域を指定し直す場合は、 をクリックし、領域の 1 つの頂点から対角の頂点までドラッグします。

補足

- 読み取りの解像度によっては、読み取り領域の大きさが制限される場合があります。解像度と読み取り領域の関係については、TWAIN ドライバーのヘルプを参照してください。

3 [閉じる] をクリックします。

4 [スキャン] をクリックします。



次の原稿があるときは同じ場所に原稿をセットし、[スキャン] をクリックします。次の原稿がないときは [スキャン終了] をクリックします。

5 読み取ったイメージを保存します。

1 [ファイル] メニューの [上書き保存] をクリックします。

2 文書名を入力し、[保存] をクリックします。

こんな機能もあります

ここでは、TWAIN ドライバーが持つ多彩な機能のいくつかを紹介します。

◆ 傾き自動補正

原稿が傾いて読み取られた場合に、文字列がまっすぐになるように自動的に補正する機能です。

◆ イメージへの印字

読み取った原稿に日付、ページ番号、任意の文字列などを合成する機能です。読み取った順に通し番号を合成したり、合成する文字列のフォントを変更することもできます。

◆ 読み取りモードの登録

あらかじめ用意されている読み取りモードのほか、よく使う読み取り条件を登録しておく機能です。登録されている読み取り条件ですぐに読み取ることができます。

目 参照

- ・それぞれの機能の詳細やその他の機能については、ヘルプを参照してください。

5. いろいろな読み取りの設定

いろいろな読み取りの設定について説明します。

読み取り条件を設定する

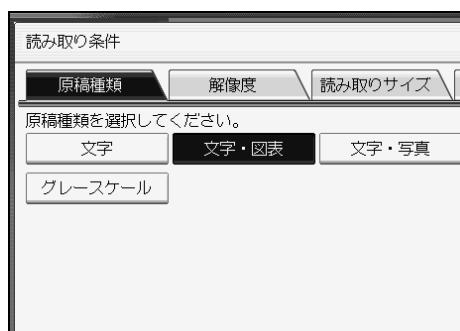
読み取り条件を設定する操作手順について説明します。

1 [読み取り条件] を押します。



2 解像度や読み取りサイズなどの設定をします。

それぞれの読み取り条件の設定内容については、「読み取り条件の設定項目」を参照してください。



3 [OK] を押します。

参照

- ・P.102 「読み取り条件の設定項目」

読み取り条件の設定項目

読み取り条件の設定項目について説明します。

原稿種類

原稿の種類に適した設定を選択します。

◆ [文字]

読み取り後に OCR 対応アプリケーションで、認識精度を上げたい場合に適しています。

◆ [文字・図表]

文字を主体とした標準的な白黒の原稿（2値）。印刷する場合に適しています。

◆ [文字・写真]

写真や絵画と文字が混じった白黒の原稿（2値）。印刷する場合に適しています。

5

◆ [写真]

写真や絵画の白黒の原稿（2値）。印刷する場合に適しています。

◆ [線画]

線を強調して読み取ります。線以外の紙面の汚れなどを消して読み取ることが可能です。

解像度

原稿を読み取るときの解像度を選択します。

読み取る解像度を [150dpi]、[200dpi]、[300dpi]、[400dpi]、[600dpi] から選択します。

読み取りサイズ

原稿を読み取る範囲を選択します。

選択できる項目、サイズは次のとおりです。

◆ [自動検知]

本機の自動サイズ検知機能を使って原稿サイズを読み取ります。

◆ 定型サイズ

A0 口、A1 口、A1 口、A2 口、A2 口、A3 口、A3 口、A4 口、A4 口、B1 口、B2 口、B2 口、B3 口、B3 口、
B4 口、B4 口、880mm×1189mm 口、765mm×1085mm 口、625mm×880mm 口、
625mm×880mm 口、36×48 口、34×44 口、30×42 口、24×36 口、24×36 口、22×34 口、22×34 口、
18×24 口、18×24 口、17×22 口、17×22 口、12×18 口、12×18 口、11×17 口、11×17 口、8 $\frac{1}{2}$ ×14 口、
8 $\frac{1}{2}$ ×14 口、9×12 口、9×12 口、8 $\frac{1}{2}$ ×11 口、8 $\frac{1}{2}$ ×11 口

◆ [不定形サイズ]

指定したサイズで読み取ります。

原稿の縦横の読み取り範囲を mm 単位で指定できます。

詳しくは「定型サイズ以外の大きさの原稿を読み取る」を参照してください。

▼ 補足

- ・[不定形サイズ] の原稿サイズ (X1 と Y1) で指定できるサイズは、210 mm 以上です。

■ 参照

- ・P.104 「定型サイズ以外の大きさの原稿を読み取る」

編集

読み取った文書を編集します。

◆ [枠消去]

読み取った文書の外周を指定した幅で消去します。

[同一幅] を選択すると、上下左右に同一の消去幅を mm 単位で指定できます。[個別に設定] を選択すると、上下左右各辺それぞれに消去幅を mm 単位で指定できます。

◆ [白黒反転]

[白黒反転] を選択すると、原稿の白い部分と黒い部分を反転して読み取ります。

◆ [ミラー]

[ミラー] を選択すると、読み取った原稿を鏡に映したように、左右に反転して表示します。

▼ 補足

- ・[枠消去] と [白黒反転] を同時に指定した場合、消去幅は黒になります
- ・[枠消去] が選択できるのは、読み取りサイズを指定した場合だけです。

定型サイズ以外の大きさの原稿を読み取る

ここでは、定型サイズ以外の原稿を不定形サイズの設定で読み取る手順、原稿のセットのしかたについて説明します。

不定形サイズを設定して読み取る方法には、以下の2種類があります。

- ・原稿の全面を読み取る方法
- ・原稿の一部分を読み取る方法

不定形サイズの原稿の全面を読み取る場合

原稿の全面を読み取る場合の不定形サイズの設定手順について説明します。

原稿の全面を読み取る方法には、以下の2種類があります。

5

- ・原稿サイズ ($X1$) に入力し、縦の長さを自動検知する。
- ・原稿サイズ ($X1$ と $Y1$) と読み取りサイズ ($X3$ と $Y3$) に入力する。

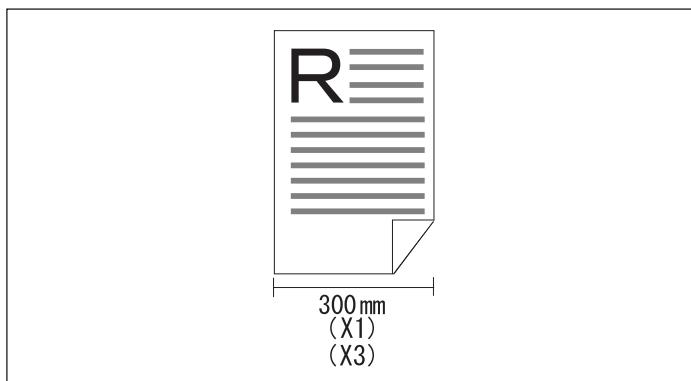
縦の長さを自動検知するとき

原稿の横の長さだけを入力し、縦の長さを自動検知させて原稿の全面を読み取ることができます。

Y の長さは入力できません。

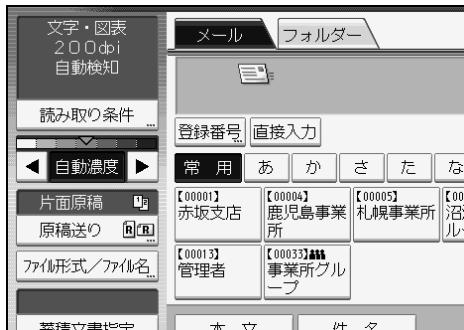
縦の長さが長い原稿を読み取るときに便利です。

ここでは以下のサイズの原稿を読み取る場合を例として説明します。



ATF134S

1 [読み取り条件] を押します。



2 [読み取りサイズ] を押します。

3 [不定形サイズ] を押します。

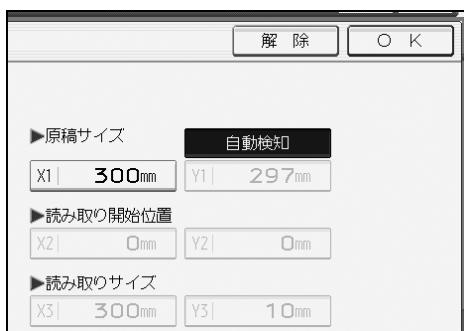
4 [自動検知] を押します。

5 原稿サイズ (X1) を選択して数値をテンキーで入力し、[#] キーを押します。

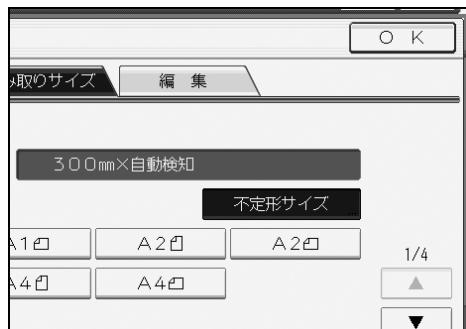
縦の長さを自動検知するとき、指定できるのは X1 だけです。X1 には、210mm ~ 914mm の値を指定できます。読み取り開始位置 (X2) は 0mm、読み取りサイズ (X3) は X1 と同じ値が固定されます。

例) X1 に 300mm を設定します。

6 [OK] を押します。



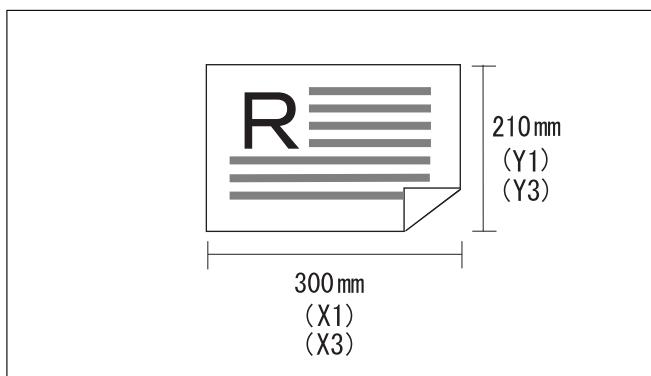
- 7 読み取りサイズ (X3) の値と自動検知が表示されていることを確認し、[OK] を押します。



縦と横の両方の長さを指定するとき

5

原稿の縦と横の長さを原稿サイズ (X1 と Y1) と読み取りサイズ (X3 と Y3) にそれぞれ入力し、原稿の全面を読み取ります。
ここでは以下のサイズの原稿を読み取る場合を例として説明します。



ATF007S

- 1 [読み取り条件] を押します。

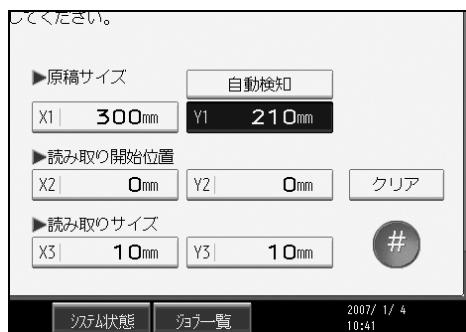


- 2 [読み取りサイズ] を押します。

- 3 [不定形サイズ] を押します。

4 原稿サイズ (X1 と Y1) を選択して数値をテンキーで入力し、[#] キーを押します。

例) X1 を 300mm、Y1 を 210mm に設定します。



5 読み取り開始位置 (X2 と Y2) を 0mm に指定します。

例) X2 を 0mm、Y2 を 0mm と入力して、[#] キーを押します。

6 読み取りサイズ (X3 と Y3) を選択して数値をテンキーで入力し、[#] キーを押します。

例) X3 を 300mm、Y3 を 210mm に設定します。

7 [OK] を押します。

8 読み取りサイズ (X3 と Y3) が [不定形サイズ] の上に表示されていることを確認し、[OK] を押します。

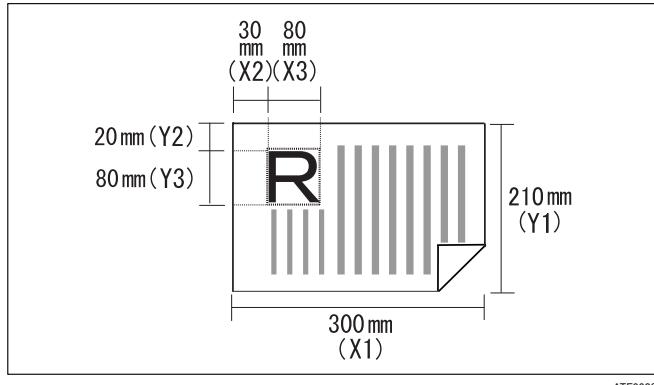


補足

- ・原稿サイズ (X1 と Y1) に入力できる値は、210 mm 以上です。

原稿の一部分を読み取る場合

原稿の一部分を読み取る場合の不定形サイズの設定手順について説明します。原稿の一部分を読み取る場合、原稿サイズ(X1とY1)、読み取り開始位置(X2とY2)、読み取りサイズ(X3とY3)を原稿の表面で実測し、それぞれ入力します。サイズの測り方は、原稿のセット方向によって異なります。次の例に、原稿の一部分「R」の部分を読み取るときのサイズの測り方を示します。これらを参考に各サイズを正しく実測してください。

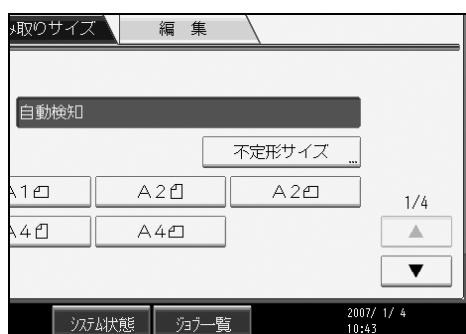


ATF008S

5

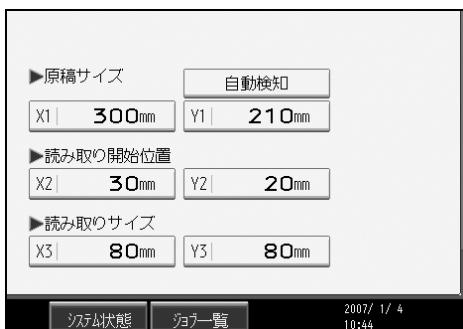
上の図の例で、原稿の「R」の部分を読み取る場合の手順を説明します。

- 1** [読み取り条件] を押します。
- 2** [読み取りサイズ] を押します。
- 3** [不定形サイズ] を押します。



4 原稿サイズ (X1 と Y1) を選択して数値をテンキーで入力し、[#] キーを押します。

例) X1 を 300mm、Y1 を 210mm に設定します。



5 読み取り開始位置 (X2 と Y2) を選択して数値をテンキーで入力し、[#] キーを押します。

例) X2 を 30mm、Y2 を 20mm に設定します。

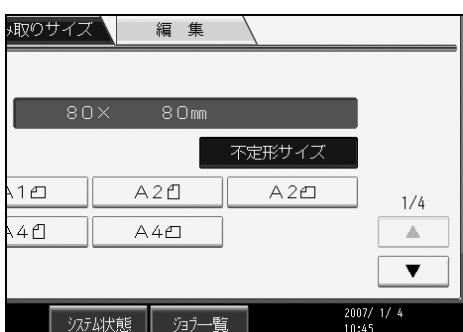
5

6 読み取りサイズ (X3 と Y3) を選択して数値をテンキーで入力し、[#] キーを押します。

例) X3 を 80mm、Y3 を 80mm に設定します。

7 [OK] を押します。

8 読み取りサイズ (X3 と Y3) が [不定形サイズ] の上に表示されていることを確認し、[OK] を押します。



↓ 補足

- ・設定されている [読み取り開始位置] または [読み取りサイズ] の初期値によって、[原稿サイズ] を先に入力できない場合があります。この場合、[読み取りサイズ]、[読み取り開始位置] を先に入力してください。[読み取りサイズ] または [読み取り開始位置] の初期値設定については、『初期設定編』「スキャナー初期設定」を参照してください。

不定形サイズで原稿を読み取る場合の原稿のセットのしかた

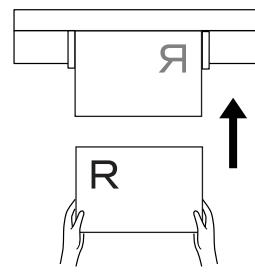
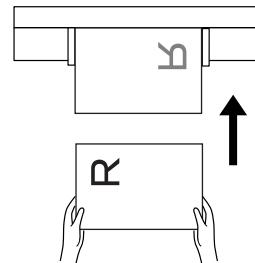
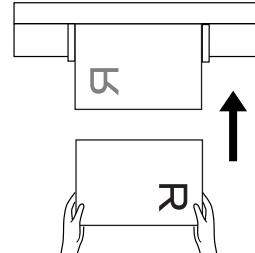
不定形のサイズで原稿を読み取る場合の、原稿のセット方向について説明します。

◆ 原稿セット方向の設定

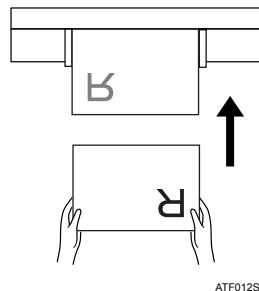
原稿の向きにあわせて、[原稿セット方向] で [R|R]、[L|L]、[L|R]、[R|L] のいずれかを選択します。[原稿セット方向] は、初期画面で [原稿セット方向] を押すと表示されます。詳しくは、「原稿セット方向を設定する」を参照してください。

◆ 原稿セット方法

原稿を左右に回転させ裏返してセットします。

原稿セット方向が [R R] のとき	 ATF010S
原稿セット方向が [L L] のとき	 ATF013S
原稿セット方向が [L R] のとき	 ATF011S

原稿セット方向が [回] のとき



参照

- P.114 「原稿セット方向を設定する」

次原稿を待機する

ここでは複数の原稿を 1 つの文書として読み取る場合に次原稿を待機させる設定について説明します。

[次原稿待機] を選択しておくと、次原稿が給紙されるまで、原稿の読み取りを無制限に待機できます。

原稿の読み取りを終了して、送信または蓄積を行うときは [#] キーを押します。



5

補足

- ・[スキャナー初期設定] の [次原稿待機設定] で [待機する] を設定している場合、[次原稿待機] キーは表示されません。この場合 [スキャナー初期設定] の [次原稿待機設定] の設定内容にしたがいます。
- ・複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取らせるときの操作手順については、「複数枚の原稿を 1 文書として読み取る」を参照してください。

参照

- ・P.116 「複数枚の原稿を 1 つの文書として読み取る」

読み取り濃度を調整する

読み取り濃度の調整方法について説明します。

読み取りの濃度を変更したいときは【自動濃度】の左右にある【◀】【▶】を押して濃度を調整します。濃度は7段階から調整できます。

【自動濃度】選択すると、新聞紙のような白色でない原稿や裏書きしてしまう原稿など、紙種による特徴を、読み取り濃度を補正して軽減します。



5

補足

- ・【自動濃度】は、「読み取り条件」の【原稿種類】の設定で、【文字】、【文字・図表】、【文字・写真】を選択していると、自動的に選択されます。

原稿セット方向を設定する

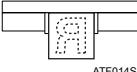
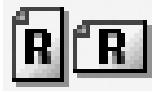
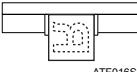
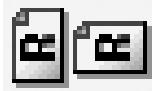
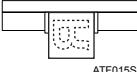
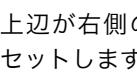
読み取った原稿の天地（上下）をパソコン上で正しく表示させるための原稿セット方向の設定について説明します。

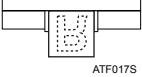
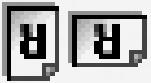
- 1** [原稿セット方向] を押します。
- 2** セットした原稿の向きと同じ方向のキーを押します。

**5**

- 3** [OK] を押します。

読み取った原稿の天地（上下）をパソコン上で正しく表示させるには、原稿をセットする向きと、本機の操作部での設定を正しく組み合わせる必要があります。
次の表を参考に、正しくセットしてください。

原稿のセット方向	操作部の画面で指定するキー
原稿の上辺からセットした場合  ATF014S	
原稿を左右に回転させ裏返してセットします。  ATF016S	
上辺が左側の原稿を左右に回転させ裏返してセットします。  ATF015S	
上辺が右側の原稿を左右に回転させ裏返してセットします。  ATF017S	

原稿のセット方向	操作部の画面で指定するキー
<p>原稿の下辺からセットした場合</p>  原稿を左右に回転させ裏返してセットします。	

 **補足**

- ・原稿セット方向は、読み取りサイズを指定した場合だけ選択できます。
- ・原稿サイズは通常縦長（■）または横長（□）ですが、原稿をセットする向きを分かりやすくするため、表では正方形の原稿で説明しています。実際にセットする原稿のサイズが変わっても、原稿をセットする向きと、本機の操作部で指定する向きの組み合わせは変わりません。

複数枚の原稿を1つの文書として読み取る

複数枚の原稿を1つの文書として読み取らせることができます。

その際、追加原稿を待機する動作として以下の2通りの方法を設定できます。

- ・指定時間待機する（時間制限を設ける）
- ・追加原稿をセットするまで待機する（時間制限を設けない）

 補足

- ・追加原稿を待機している間、省エネモードには移行しません。
- ・追加原稿を待機している間、読み取り条件を変更できます。

原稿追加に時間制限を設ける時

5

あらかじめ、追加原稿待機のタイムリミットの秒数を設定しておきます。

[スキャナー初期設定] の [次原稿待機設定] で [指定時間待機する] を設定します。

1 読み取り条件、原稿のセット方向を設定します。

読み取り条件については「読み取り条件を設定する」、原稿のセット方向については「原稿セット方向を設定する」を参照してください。

2 [次原稿待機] が選択されていないことを確認します。

[次原稿待機] の選択について詳しくは、「次原稿を待機する」を参照してください。

3 メール送信、フォルダー送信、配信、蓄積の設定をします。

メール送信、フォルダ送信、配信、蓄積の設定については、「基本的なメール送信の操作手順」「基本的なフォルダー送信の操作手順」「基本的な配信の操作手順」「基本的な蓄積の操作手順」を参照してください。

4 原稿をセットします。

原稿は読み取った順にまとめられます。先頭のページから順にセットしてください。原稿読み取りが開始され、終了すると、次の原稿を受け付けるまでの残り時間が表示されます。

原稿読み取り待機中は、指定した送信先が表示されます。

5 追加原稿があるときは、指定時間内にセットします。

原稿がなくなるまで、この手順を繰り返します。

途中で読み取り条件を変更した場合は、原稿受け付けまでのカウントダウンが中断されます。原稿をセットすると途中で原稿が読み取られ、次の原稿を受け付けるまでのカウントダウンが開始されます。

6 すべての原稿を読み取り終えてカウントダウンが終了すると、自動的に蓄積 / 送信が開始されます。

[#] キーを押して、蓄積 / 送信を開始させることもできます。

補足

- ・[スキャナー初期設定] の [次原稿待機設定] については『初期設定編』「スキャナー初期設定」を参照してください。

参考

- ・P.101 「読み取り条件を設定する」
- ・P.114 「原稿セット方向を設定する」
- ・P.112 「次原稿を待機する」
- ・P.24 「基本的なメール送信の操作手順」
- ・P.51 「基本的なフォルダー送信の操作手順」
- ・P.73 「基本的な蓄積の操作手順」

原稿追加に時間制限を設けないとき

5

1 読み取り条件、原稿のセット方向を設定します。

2 [次原稿待機] を選択します。

[次原稿待機] の選択について詳しくは、「次原稿を待機する」を参照してください。

3 メール送信、フォルダ送信、蓄積の設定をします。

メール送信、フォルダ送信、蓄積の設定については「基本的なメール送信の操作手順」「基本的なフォルダー送信の操作手順」「基本的な蓄積の操作手順」を参照してください。

4 原稿をセットし、読み取りを開始します。

原稿は読み取った順にまとめられます。先頭のページから順にセットしてください。
原稿読み取り待機中は、指定した送信先が表示されます。

5 追加原稿があるときは、原稿をセットします。

原稿がなくなるまで、この手順を繰り返します。

6 すべての原稿を読み取り終えたら、[#] キーを押します。蓄積 / 送信が開始されます。

蓄積 / 送信が開始されます。

参考

- ・P.101 「読み取り条件を設定する」
- ・P.114 「原稿セット方向を設定する」
- ・P.112 「次原稿を待機する」
- ・P.24 「基本的なメール送信の操作手順」
- ・P.51 「基本的なフォルダー送信の操作手順」
- ・P.73 「基本的な蓄積の操作手順」

ファイル形式とファイル名を設定する

ファイル形式とファイル名、PDF ファイルのセキュリティなどの設定手順を説明します。

ファイル形式を設定する

送信する文書のファイル形式の設定手順を説明します。ファイル形式は、メール送信するとき、フォルダー送信するとき、蓄積文書をメール送信するとき、蓄積文書をフォルダー送信するときに設定できます。

★重要

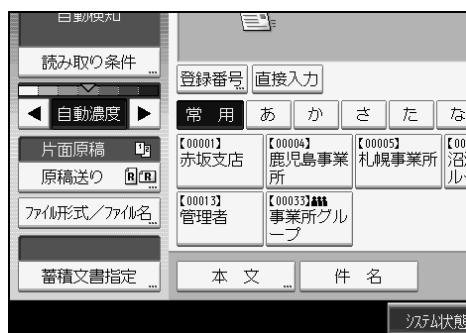
- 蓄積する文書は、TIFF 形式で保存されます。[文書蓄積] で [蓄積のみ] を選択した場合は、ファイル形式を設定できません。[文書蓄積] で [蓄積 + 送信] を選択した場合、メール送信、フォルダー送信する文書は設定したファイル形式で送信されますが、蓄積文書は設定したファイル形式では蓄積されません。蓄積文書のファイル形式は、蓄積文書を送信するときに設定してください。

5

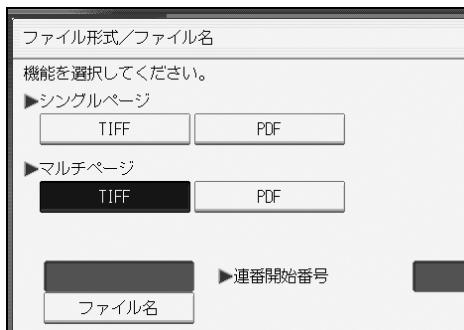
ファイル形式は次の種類を選択できます。ただし、読み取り条件などの設定によって、選択できるファイル形式は異なります。

- ・シングルページのとき
[TIFF]、[PDF]
- ・マルチページのとき
[TIFF]、[PDF]

【ファイル形式 / ファイル名】を押します。



2 ファイル形式を選択します。



3 [OK] を押します。

補足

- ・[スキャナー初期設定] の [圧縮設定 (白黒 2 値)] で [圧縮しない] を設定した場合よりも、[圧縮する] を選択した場合の方がファイルサイズが大きくなる場合があります。

ファイル名を設定する

ファイル名の設定手順を説明します。

読み取った文書には、読み取った年月日時刻や 4 行のページ番号などで作られるファイル名が付与されます。

- ・ファイル形式がシングルページの文書の場合、年月日時刻と 4 行のページ番号で構成されたファイル名が付与されます。年月日時刻と 4 行のページ番号の間にはアンダーバーが入ります。

(例：2020 年 12 月 31 日の午後 3 時 30 分 15 秒 10 ミリ秒にシングルページ TIFF 形式で読み取った場合は 20201231153015010_0001.tif)

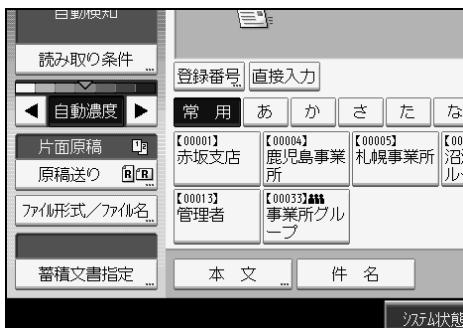
- ・ファイル形式がマルチページの文書の場合、読み取った年月日時刻のファイル名が付与されます。

(例：2020 年 12 月 31 日の午後 3 時 30 分 15 秒 10 ミリ秒にマルチページ TIFF 形式で読み取った場合は 20201231153015010.tif)

この文書名を変更することができます。

5

1 [ファイル形式 / ファイル名] を押します。



2 [ファイル名] を押します。



ファイル名のソフトキーボードが表示されます。

3 ファイル名を入力します。

4 [OK] を 2 回押します。

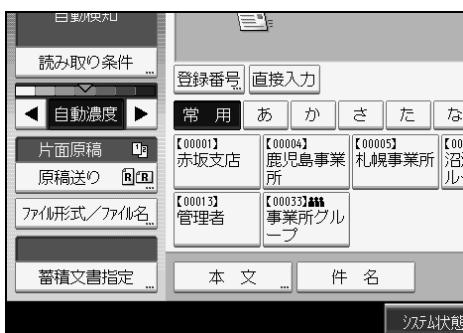
補足

- FTP サーバーにフォルダー送信する場合、半角カタカナなどの ASCII コードに対応していない文字、記号を入力すると、送信先でファイル名が正しく表示されない場合があります。ファイル名は ASCII コードに対応した文字、記号で入力してください。

ファイル名の連番の開始番号を変更する

シングルページのファイルには、ファイル名のうしろに連番の数字が付与されます。この連番の開始番号を変更します。

1 [ファイル形式 / ファイル名] を押します。



5

2 連番開始番号の右の [変更] を押します。



3 連番開始番号をテンキーで入力します。

4 [#] キーを押します。

5 [OK] を押します。

補足

- ファイル形式でシングルページを選んでいないと、開始番号を変更できません。
- 連番の桁数を変更することもできます。変更は [スキャナー初期設定] の [シングルページ番号桁設定] で行います。変更できる桁数は、4桁または8桁です。詳しくは『初期設定編』「スキャナー初期設定」を参照してください。

PDF ファイルにセキュリティを設定する

PDF ファイルのセキュリティ設定について説明します。

不正利用に対する安全性を強化するため、PDF ファイルにセキュリティ設定をすることができます。

★ 重要

- ・ PDF 以外のファイル形式を選択していると、セキュリティ設定はできません。
- ・ セキュリティの権限項目の文書を印刷する権限で、[低解像度のみ許可] を選択していると、PDF の暗号化レベルで [40bit] は選択できません。

PDF ファイルを暗号化する

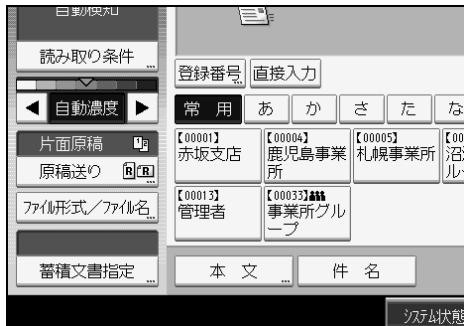
PDF ファイルに文書パスワードを設定し、暗号化して保護します。パスワードを知らない人は PDF ファイルを開くことができなくなります。

5

★ 重要

- ・ 暗号化の設定はメール送信、フォルダー送信時にのみできます。
- ・ 文書パスワードを忘れるとき、暗号化したファイルを開くことができなくなります。設定した文書パスワードは、忘れないように大切に保管しておいてください。

1 [ファイル形式 / ファイル名] を押します。

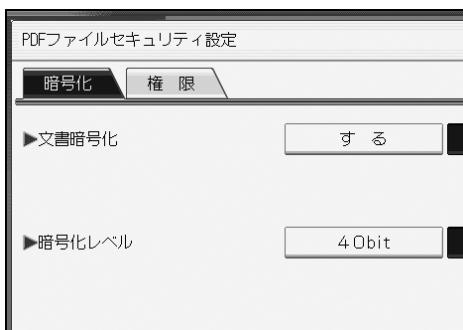


2 ファイル形式で [PDF] が選択されていることを確認します。

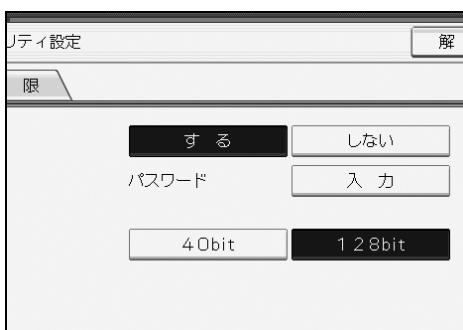
3 [セキュリティ設定] を押します。

4 [暗号化] を選択します。

5 文書暗号化の【する】を選択します。



6 パスワードの【入力】を押します。



5

7 パスワードを入力して [OK] キーを押します。

ここで入力した文書パスワードは、PDF ファイルを開くときに必要になります。

8 パスワードを再入力して [OK] キーを押します。

9 暗号化レベルで [40bit] または [128bit] を選択します。

10 [OK] を 2 回押します。

補足

- ・文書パスワードは、権限変更パスワードと同じものは使えません。
- ・文書パスワードは半角英数 32 文字まで入力できます。
- ・暗号化レベルで [128bit] を選択して作成した PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader 3.0 および 4.0 とは互換性がありません。

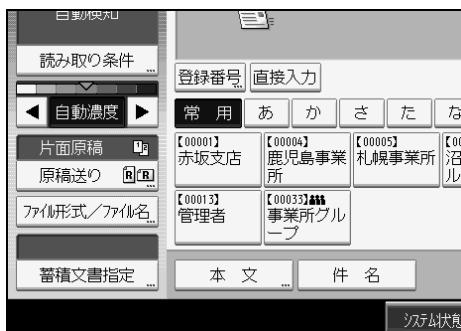
PDF ファイルのセキュリティ権限を変更する

PDF ファイルに権限変更パスワードを設定して、PDF ファイルの印刷、変更、内容のコピーまたは抽出を制限します。権限変更パスワードを知っている人だけが、制限を解除、変更できます。

★ 重要

- ・暗号化の設定はメール送信、フォルダー送信時にのみできます。
- ・権限変更パスワードを忘れる、ファイルの制限の解除、変更ができなくなります。設定した権限変更パスワードは、忘れないように大切に保管しておいてください。
- ・PDF ファイルの暗号化レベルで [40bit] を選択していると、セキュリティ権限項目の文書を印刷する権限で [低解像度のみ許可] は選択できません。

1 [ファイル形式 / ファイル名] を押します。



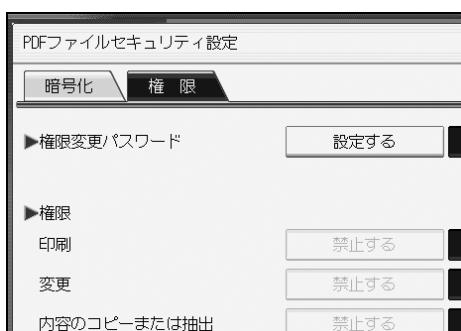
5

2 ファイル形式で [PDF] が選択されていることを確認します。

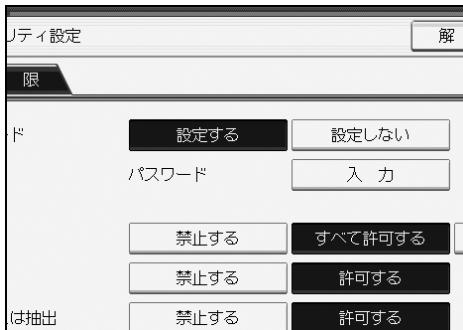
3 [セキュリティ設定] を押します。

4 [権限] を選択します。

5 権限変更パスワードの [設定する] を選択します。



6 パスワードの【入力】を押します。



7 パスワードを入力して [OK] キーを押します。

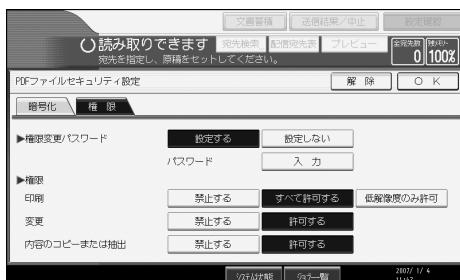
ここで入力したパスワードは、セキュリティを設定した PDF ファイルのセキュリティ権限を変更するときに必要になります。

8 パスワードを再入力して [OK] キーを押します。

9 セキュリティ権限項目を選択します。

設定できるセキュリティ権限項目は次のとおりです。

- ・文書を印刷する権限
[禁止する]、[すべて許可する]、[低解像度のみ許可] から選択します。
- ・文書を変更する権限
[禁止する]、[許可する] から選択します。
- ・文書中のテキストをコピー、または抽出する権限
[禁止する]、[許可する] から選択します。



10 [OK] を2回押します。

補足

- ・権限変更パスワードは、文書パスワードと同じものは使えません。
- ・権限変更パスワードは半角英数 32 文字まで入力できます。

プログラム

よく使う設定は、設定した内容を記憶させることによって繰り返し使うことができます。

補足

- ・プログラムはスキャナー機能で10件まで登録できます。
- ・消去またはあらたに登録しない限り、電源を切ったり、[リセット]キーを押したりしても登録した内容は取り消されません。
- ・プログラムとして登録可能な設定は、読み取り条件、原稿セット方向、ファイル形式、文書蓄積、プレビュー、受信確認です。
- ・簡単画面での設定は、プログラムに登録できません。

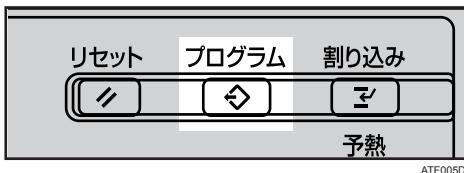
よく使う設定を登録する

よく使う設定をプログラムに登録します。

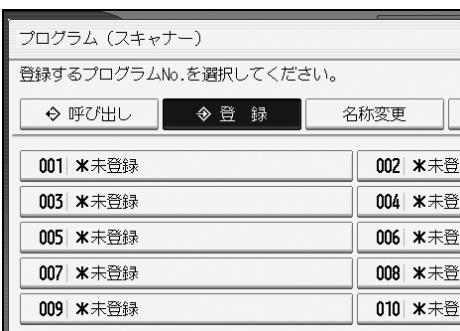
5

1 スキャナー機能の初期画面で、登録する内容を設定します。

2 [プログラム] キーを押します。



3 [登録] を押します。



4 登録するプログラム No. を選択します。

今が表示されている No. には、すでにプログラムが登録されています。

5 プログラム名を入力します。

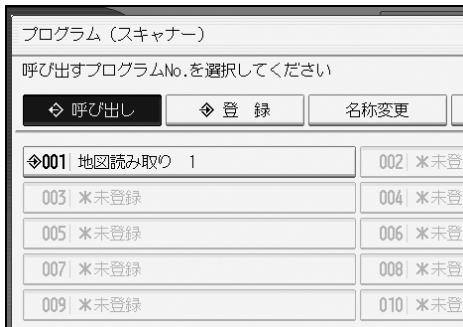
6 [OK] を押します。

プログラム画面に戻り、登録したプログラム No. の前には今が、後ろにはプログラム名が表示されます。しばらくすると初期画面に戻ります。

登録内容を呼び出す

プログラムに登録した設定内容を呼び出して使用します。

- 1** [プログラム] キーを押します。
- 2** [呼び出し] を押します。



5

- 3** 呼び出すプログラム No. を押します。

登録されているプログラムが呼び出され、スキャナー初期画面に戻ります。
◆が表示されていない No. にはプログラムは登録されていません。

- 4** 原稿をセットし、[スタート] キーを押します。

登録されている内容を変更する

プログラムに登録されている内容を変更します。

- 1** [プログラム] キーを押します。
 - 2** [呼び出し] を押します。
 - 3** 呼び出すプログラム No. を押します。
 - 4** 呼び出された設定を変更します。
 - 5** [プログラム] キーを押します。
 - 6** [登録] を押します。
 - 7** 内容を変更したプログラム No.、または新しいプログラム No. を選択します。
 - 8** 登録されているプログラム No. に上書きする場合は確認メッセージが表示されますので、[登録する] を押します。
- 新しいプログラム No. を選択した場合はここで操作は不要です。次の手順へ進んでください。

9 プログラム名を入力します。

10 [OK] を押します。

上書きをしたとき、登録されていたプログラムは消去されます。
新しいプログラム名が表示され、しばらくすると初期画面に戻ります。

登録されている内容を消去する

登録したプログラムを消去します。

1 [プログラム] キーを押します。

2 [消去] を押します。



5

3 消去するプログラム No. を選択します。

4 [消去する] を押します。

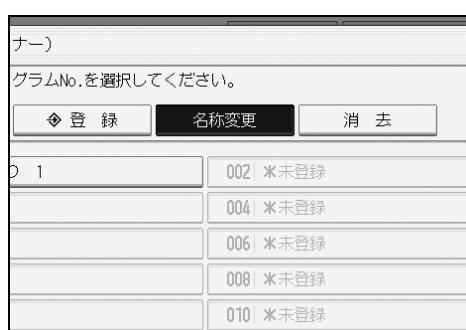
プログラムが消去されて、初期画面に戻ります。

プログラムの登録名称を変更する

登録されているプログラムの名称を変更します。

1 [プログラム] キーを押します。

2 [名称変更] を押します。



3 名称を変更するプログラム No. を選択します。

4 新しいプログラム名を入力します。

5 [OK] を押します。

新しいプログラム名が表示され、しばらくすると初期画面に戻ります。

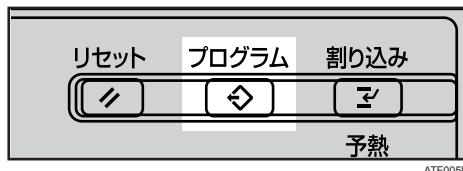
初期画面の初期値を登録する

電源を入れた直後、オートクリアしたとき、またはリセットしたときの初期画面の状態を設定する手順について説明します。

初期値として登録可能な設定は、読み取り条件、原稿セット方向、ファイル形式、文書蓄積、プレビュー、受信確認です。

1 初期画面で読み取り条件などの設定をします。

2 [プログラム] キーを押します。



3 [初期値として登録] を押します。



4 [登録] を押します。

5 確認画面が表示されますので、[登録する] を押します。

現在の設定が初期値として登録され、初期画面に戻ります。

補足

- ・[工場出荷時に戻す] を押すと、初期画面の初期値を工場出荷時の状態に戻すことができます。
- ・初期画面の初期値は、通常画面と簡単画面で別々に登録できます。

TWAIN スキャナー使用時の読み取りの設定

TWAIN スキャナー使用時の原稿セット方向、サイズが混在している原稿束を読み取るときの設定方法について説明します。

TWAIN スキャナー使用時の原稿セット方向を設定する

読み取った文書の天地（上下）をパソコン上で正しく表示させるには、原稿をセットする向きと、スキャナーコントロールダイアログでの設定を正しく組み合わせる必要があります。

1 スキャナーコントロールダイアログを開きます。

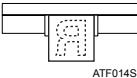
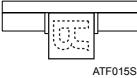
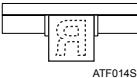
スキャナーコントロールダイアログの開きかたについて詳しくは、「[基本的な TWAIN スキャナーの操作手順](#)」を参照してください。

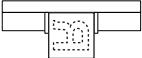
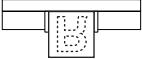
5



2 [原稿サイズ] を設定します。

原稿セット方向と設定の関係については次の表を参考にしてください。

原稿のセット方向	スキャナーコントロールダイアログで指定するキー
原稿の上辺からセットした場合 	OFF
原稿を左右に回転させ裏返してセットします。 	
原稿の上辺が右側になる向きにセットした場合 	左へ 90°
上辺が左側の原稿を左右に回転させ裏返してセットします。	

原稿のセット方向	スキャナーコントロールダイアログで指定するキー
原稿の上辺が左側になる向きにセットした場合  <small>ATF016S</small>	右へ 90°
上辺が右側の原稿を左右に回転させ裏返してセットします。	
原稿の下辺からセットした場合  <small>ATF017S</small>	180°
原稿を左右に回転させ裏返してセットします。	

 **補足**

- 原稿サイズは通常縦長（団）または横長（団）ですが、原稿をセットする向きを分かりやすくするため、表では正方形の原稿で説明しています。実際にセットする原稿のサイズが変わっても、原稿をセットする向きと、スキャナードライバーで指定する向きの組み合わせは変わりません。
- スキャナーコントロールダイアログについては、「基本的な TWAIN スキャナーの操作手順」を参照してください。

 **参照**

- P.97 「原稿を読み取る」

6. 付録

スキャナー機能の仕様や補足事項などを記載しています。

解像度と読み取りサイズの関係

解像度と読み取りサイズの関係について説明します。

解像度と読み取りサイズは相反する関係にあります。そのため、解像度 (dpi) を高く設定するほど、読み取ることができる領域は小さくなります。また逆に、読み取り領域が大きいほど、設定できる解像度は低くなります。

読み取ることができる解像度と読み取りサイズの関係は次のとおりです。読み取りできない組み合わせのときは「読み取りデータが大きすぎます。解像度を確認し、再スタートをしてください。」というメッセージが本機の操作部の画面に表示されますので、読み取り可能な条件に変更してください。

▼ 補足

- 文書の圧縮程度によっては、読み取ることができる文書サイズが制限される場合があります。

メール送信、フォルダー送信、蓄積機能を使用するとき

メール送信、フォルダー送信、蓄積機能を使用するときの解像度と原稿サイズの関係について説明します。

◆ A1～A4、B2～B4

600dpi まですべての組み合わせで読み取ることができます。

◆ A1、B2 より大きいサイズの場合

名称	幅 (mm)	高さ (mm)	150dpi	200dpi	300dpi	400dpi	600dpi
長尺	914	～ 15000	△				
長尺	914	～ 13400	△				
長尺	914	～ 6000	△	△	△		
長尺	914	～ 3680	○	△	△		
長尺	914	～ 3400	○	△	△		
長尺	914	～ 2760	○	○	△	△	
長尺	914	～ 1840	○	○	○	△	
長尺	914	～ 1520	○	○	○	△	
長尺	914	～ 1380	○	○	○	○	△
長尺	914	～ 920	○	○	○	○	○
A0×2	841	2378	○	○	△	△	
A1×2	594	1682	○	○	○	△	△
A0	841	1189	○	○	○	○	△
B1	728	1030	○	○	○	○	△
36×44	914	1117.6	○	○	○	○	△
34×44	864	1117.6	○	○	○	○	△

↓ 補足

- ・・・原稿のセット方向として [R|R] [H|H] [W|W] [B|B] のどれを選んでも、原稿を読み取ることができます。
- △・・・原稿のセット方向として [R|R] [H|B] を選んだときに、原稿を読み取ることができます。
- 無印・・・原稿のセット方向として [R|R] を選んだときに、原稿を読み取ることができます。幅が 914mm より小さい場合には、この表よりも読み取れる解像度が上がることがあります。

TWAIN スキャナーとして使用するとき

TWAIN スキャナーとして使用するときの解像度と読み取りサイズの関係について説明します。

原稿の幅(横)によって、読み取り可能な最大解像度が決まります。たとえば、A0×2とA0は幅が同じ841mmなので、読み取り可能な最大解像度は同じ652dpiになります。

縦の長さについては解像度の制限ではなく、1200dpiまで読み取ることができます。

以下に、読み取りサイズごとの、読み取り可能な最大解像度を示します。

読み取りサイズ	幅(mm)	最大解像度(dpi)
最大	914	600
A0×2	841	652
A1×2	594	923
A0	841	652
B1	728	753
A1	594	923
B2	515	1065
A2	420	1200
B3	364	1200
A3	297	1200
B4	257	1200
A4	210	1200

補足

- 大きいサイズの原稿を読み取る場合、PCのメモリー不足や他のアプリケーションの使用状況によって、読み取れない場合もあります。

参照

- TWAINスキャナーとして使用する場合に、読み取りサイズや解像度を設定するときは、TWAINドライバーのヘルプを参照してください。

CD-ROM 収録ソフトウェア

付属の CD-ROM に収録されているソフトウェアについて説明します。

オートランプログラムについて

オートランプログラムについて説明します。

Windows 95/98/Me/2000/XP/Vista、Windows Server 2003、Windows NT4.0 上で CD-ROM をクライアントコンピューターにセットすると、インストーラーが自動的に起動（オートラン）し、各種ソフトウェアのインストールを行うことができます。

補足

- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003 または Windows NT4.0 でインストールするときは、Administrators グループのメンバーとしてログインしてください。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「Setup.exe」を起動してください。
- オートランを無効にしたいときは、Shift キーを押しながら CD-ROM をセットし、クライアントコンピューターが CD-ROM をアクセスし終わるまで Shift キーを押したままにします。
- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、以降のすべてのソフトウェアのインストールが中止されます。キャンセルした場合は、再起動後、残りのソフトウェアをインストールし直してください。

6

TWAIN ドライバー（スキャナードライバー）

TWAIN ドライバーのファイル格納場所と動作環境について説明します。

スキャナーから原稿を読み取るために必要なドライバーです。本機をネットワーク TWAIN スキャナーとして利用するためには、必ずインストールする必要があります。

◆ ファイル格納場所

CD-ROM 内の次のフォルダーに格納されています。

¥DRIVERS¥TWAIN

◆ 動作環境

- コンピューター本体

対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機

Windows NT で使用する場合、RISC ベースのプロセッサ (MIPS R シリーズ、Alpha AXP、PowerPC) 環境では動作しません。

- 対象 OS

Microsoft Windows 95/98/Me 日本語版

Microsoft Windows 2000/XP/Vista 日本語版

Microsoft Windows NT 4.0 日本語版

Microsoft Windows Server 2003 日本語版

- ディスプレイ

800×600 ドット 256 色以上

送信 / 蓄積 / 配信機能の各設定項目の値

送信 / 蓄積 / 配信機能の各設定項目の値について説明します。

 **補足**

- 文書や原稿の種類、設定などによっては、次に示す最大値まで宛先を指定したり、文字を入力したりできない場合があります。

送信機能

送信機能の設定項目の値について説明します。

メール送信

メール送信の設定項目の値について説明します。

6

項目	数値	備考
件名の最大入力文字数	半角英数で 128 文字	-
本文の最大入力文字数	一覧からの選択時 400 文字 (80 文字×5 行) 直接入力時 80 文字	一覧からの選択と直接入力の組み合わせはできません。
メールアドレスの最大入力文字数	半角英数で 128 文字	LDAP サーバーから検索したメールアドレスで、文字数が半角英数で 128 文字を超えるものは、正しい宛先として指定できません。
一度に指定可能な宛先数	500 件	直接入力 (LDAP 検索指定を含む) をする場合は、100 件まで指定可能です。残りは登録されている宛先から 400 件以内で選択してください。
送信可能な文書サイズ	1 文書あたり最大 725.3MB	-
送信可能なページ数	1 文書あたり最大 1000 ページ	-

フォルダー送信

フォルダー送信の設定項目の値について説明します。

項目	数値	備考
SMB プロトコルでのパス名の最大入力文字数	半角英数で 128 文字	-
SMB プロトコルでのユーザー名の最大入力文字数	半角英数で 64 文字	-
SMB プロトコルでのパスワードの最大入力文字数	半角英数で 64 文字	-
FTPプロトコルでのサーバー名の最大入力文字数	半角英数で 64 文字	-
FTPプロトコルでのパス名の最大入力文字数	半角英数で 128 文字	-
FTPプロトコルでのユーザー名の最大入力文字数	半角英数で 64 文字	-
FTPプロトコルでのパスワードの最大入力文字数	半角英数で 64 文字	-
NCP プロトコルでのパス名の最大入力文字数	半角英数で 128 文字	-
NCP プロトコルでのユーザー名の最大入力文字数	半角英数で 64 文字	-
NCP プロトコルでのパスワードの最大入力文字数	半角英数で 64 文字	-
一度に指定可能な宛先数	50 件	直接入力をする場合も 50 件まで 入力可能です。
送信可能サイズ	1 文書あたり 2000MB	-

同報送信

メール送信とフォルダー送信を同時に行うときの設定項目の値について説明します。

項目	数値	備考
メール送信 / フォルダー送信合わせて指定可能な宛先数	550 件	-
メール送信時に指定可能な宛先数	500 件	直接入力 (LDAP 検索指定を含む) をする場合は、100 件まで指定可能です。
フォルダー送信時に指定可能な宛先数	50 件	-

蓄積機能

蓄積機能の各設定項目の値について説明します。

項目	数値	備考
文書名の最大入力文字数	半角英数で 64 文字	操作部の画面には先頭から半角英数で 16 文字分が表示されます。
ユーザー名の最大入力文字数	半角英数で 20 文字	操作部の画面には先頭から半角英数で 16 文字分が表示されます。
パスワードの最大入力文字数	4 ~ 8 行の数字	-
一度に選択可能な文書数	30 文書	-
蓄積可能な総文書数	最大 3000 文書	スキャナー機能だけでなく、コピー機能、ドキュメントボックス機能、プリンター機能を使用して蓄積した文書を含めた値です。
蓄積可能な総ページ数	最大 3000 ページ	スキャナー機能だけでなく、コピー機能、ドキュメントボックス機能、プリンター機能を使用して蓄積した文書を含めた値です。
蓄積可能な 1 文書あたりのページ数	最大 1000 ページ	-
蓄積可能サイズ	1 文書あたり 2000MB	-

仕様

スキャナーの仕様について説明します。

読み取り方式	原稿台固定平面走査方式
読み取り速度	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークスキャナー使用時 150 dpi : 320 mm/秒 200 dpi : 240mm/秒 300 dpi : 160 mm/秒 400 dpi : 120 mm/秒 600 dpi : 80mm/秒 ネットワーク TWAIN スキャナー使用時 150 dpi : 320 mm/秒 200 dpi : 240mm/秒 300 dpi : 160 mm/秒 400 dpi : 120 mm/秒 600 dpi : 80mm/秒 1200 dpi : 40mm/秒
イメージセンサーの種類	CCD イメージセンサー
原稿の種類	シート
インターフェース	イーサネットインターフェース (10BASE-T、100BASE-TX または 1000BASE-T(オプション))、IEEE 802.11b (無線 LAN) (オプション)
読み取り可能な原稿サイズ	縦 (210~1500mm)×横 (210~914mm)
基本読み取り解像度	600dpi
メール送信/フォルダー送信使用時の読み取り解像度可変範囲	150dpi、200dpi、300dpi、400dpi、600dpi から指定可能
TWAIN スキャナー使用時の読み取り解像度可変範囲	150~1,200dpi の範囲で指定可能
送信が可能なファイル形式	TIFF、PDF
画像圧縮形式	TIFF (MH、MR、MMR)
ネットワーク接続時の使用プロトコル	IPv4、IPX
メール送信時の使用プロトコル	SMTP、POP3
フォルダー送信時の使用プロトコル	SMB、FTP、NCP

索引

アルファベット索引

CSV ファイル	22, 49
FTP サーバー	9, 46, 54, 62
IEEE 802.11b	22
LDAP 検索	33
LDAP サーバー	21, 28, 33, 35
NCP	64, 66
NDS	64
NDS ツリー	64, 66
NetWare サーバー	64, 9, 47, 54
NetWare バインダリサーバー	64, 66
Network Monitor for Admin	22, 49
PDF	118
PDF ファイル	
暗号化	122
セキュリティ権限変更	124
セキュリティ設定	122
Ridoc Desk Navigator	8, 71, 84
Ridoc Desk Navigator Lt	95
Ridoc Document Router	8
SMB	48, 58, 60
SMB プロトコル	45
SMTP サーバー	21, 22
TIFF	118
TWAIN スキャナー	93, 94, 130, 135
原稿セット方向	130
読み取りの設定	130
TWAIN ドライバー	96
TWAIN ドライバー (スキャナードライバー)	136
TWAIN 割り込み禁止時間設定	18
URL アドレス	43, 85
Web Image Monitor	22, 43, 49, 71, 84

あ行

圧縮設定 (白黒 2 値)	18
宛先	15
宛先検索	30, 33, 56
宛先検索対象	18
宛先登録	35, 68
宛先表一覧	28, 55
宛先表切り替え	27
宛先表初期表示選択	18
宛先表見出し切り替え	18
アドレス帳	22, 28, 29, 30, 37, 49, 54
暗号化	122
イーサネット	22, 48, 95
インストール	96
オートランプログラム	136

か行

解像度	102
解像度と原稿サイズ	134
解像度と読み取りサイズ	133, 135
拡大表示	13
拡張無線 LAN ボード	8
確認画面	12
画面	78
簡単画面	11
設定確認画面	12
送信結果確認画面	15
プレビュー画面	13
画面切り替え	
フォルダー送信画面	53
メール送信画面	27
基本設定	18
共有フォルダー	9, 45, 58
原稿種類	102
原稿設定	12
原稿セット方向	110, 114
原稿セット方向 (TWAIN スキャナー使用時)	130
原稿読み取り開始方法	17
件名	23, 39
工場出荷時に戻す	129

さ行

次原稿待機	112, 117
次原稿待機設定	18, 112, 116
自動検知	102
縦の長さ	104
自動濃度	113
縮小表示	13
受信確認	23, 24
仕様	140
消去	87
使用説明書について	1
状態	15
初期画面の初期値を登録する	129
初期設定 / カウンター / 問合せ情報	18
初期値として登録	129
ジョブ一覧	15
白黒反転	103
シングルページ番号桁設定	18
スキャナー機能	9
スキャナー初期設定	18
セキュリティ設定	122
接続テスト	58, 62, 64
設定確認画面	12
設定項目の値	137
送信機能	137
蓄積機能	139
同報送信	138
フォルダー送信	138
メール送信	137
線画	102
操作手順	24
送信機能アイコン	12, 15
送信継続	13
送信結果	15
送信先	28, 54
送信先の選択方法	28
送信先フォルダーの登録	49
送信者	15, 23
送信者一覧	36
送信者と送信先	12
送信者名	36, 37
送信者名の指定	36
送信者一覧	36
登録番号	37
送信設定	12, 18
送信中止	13, 15
送信日時	15

送信メールサイズ制限	18
送信履歴印刷	18
送信履歴消去	18
送信履歴満杯時印刷設定	18

た行

ダウンロード	84
蓄積	42, 71, 134
蓄積 + 送信	42, 69
蓄積のみ	73
蓄積文書	
確認	82
管理	87
検索	80
消去	87
送信	85
文書情報の変更	88
蓄積文書管理 / 消去	88, 89, 90
蓄積文書指定	
	78, 82, 85, 87, 88, 89, 90
蓄積文書の一覧	85
蓄積文書の一覧画面	10, 78
蓄積文書の確認	
(クライアントコンピューター)	84
蓄積文書の検索	
文書名	81
ユーザー名	80
蓄積文書の表示	
Web Image Monitor	84
蓄積文書メール内容	18, 43
直接入力	23, 32, 49, 58, 60, 62, 64
定型サイズ	102
動作環境	
TWAIN ドライバー	136
導入設定	18
同報送信時の宛先数	138
登録番号	23, 29, 37, 49, 55

な行

ネットワーク参照	60
ネットワーク配信	134
濃度	113

は行

配信宛先表	27, 53
配信画面	10
配信サーバー	9
配信サーバー宛先表更新	18
パスワード	75, 77, 90
パスワード変更	90
表示位置	13
表示文書	13
表示ページ	13
表示ページ切り替え	13
ファイル形式	118
ファイル形式を設定する	118
ファイル名	
設定	120
連番の開始番号変更	121
ファイル名を設定する	118
フォルダー送信	45, 48, 54, 134
操作手順	51
フォルダー送信画面	10, 49
フォルダー送信先の指定	54
宛先検索	56
宛先表一覧	55
アドレス帳	54
登録番号	55
複数枚の原稿を1つの文書として	
読み取る	116
付属 CD-ROM	136
不定形サイズ	102, 104
不定形サイズの読み取り	
原稿の一部分	108
全面	104, 106
プレビュー	78, 82
プレビュー画面	13
プログラム	126
消去	128
登録	126
登録内容変更	127
名称変更	128
呼び出し	127
文書消去	87
文書情報	75
文書情報設定画面	75, 76, 77
文書蓄積	42, 69, 73
パスワード設定	77
文書名設定	76
ユーザー名設定	75
文書名	15, 75, 76, 89
文書名検索	81

文書名変更	89
変更	88
本文	23, 40, 41

ま行

マーク	7
ミラー	103
無線 LAN	22, 48, 95
メールアドレス	22, 30, 32, 37
メールサイズ制限オーバー時分割	18
メール送信	21, 22, 24, 43, 134
メール送信画面	10, 23, 27
メール送信簡単画面	11
メール附加情報	18, 40
メール本文の設定	40
一覧	40
直接入力	41
メニュープロテクト設定	18

や行

ユーザー名	75, 88
変更	88
ユーザー名検索	80
優先本体宛先表	18
読み取りサイズ	102
読み取り条件	101, 102
読み取り設定	18
読み取り速度	140

ら行

リスト印刷	15
-------	----

わ行

枠消去	103
-----	-----



商標

- ドキュメントボックス、RPCS、RP-GL/2、RTIFF は株式会社リコーの商標または登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows NT®、Windows Server®、Windows Vista™ は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe®、Acrobat®、PostScript®、Reader® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の各国での登録商標です。
- NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。
- Pentium® は Intel Corporation の登録商標です。
- その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

* Windows 95 の製品名は、Microsoft® Windows® 95 です。

* Windows 98 の製品名は、Microsoft® Windows® 98 です。

* Windows Me の製品名は、Microsoft® Windows® Millennium Edition (Windows Me) です。

* Windows 2000 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Microsoft® Windows® 2000 Server

* Windows XP の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows® XP Home Edition

Microsoft® Windows® XP Professional

* Windows® Vista の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows® Vista™ Ultimate

Microsoft® Windows® Vista™ Enterprise

Microsoft® Windows® Vista™ Business

Microsoft® Windows® Vista™ Home Premium

Microsoft® Windows® Vista™ Home Basic

* Windows Server 2003 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition

Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition

Microsoft® Windows Server® 2003 Web Edition

* Windows NT 4.0 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0

Microsoft® Windows NT® Server 4.0

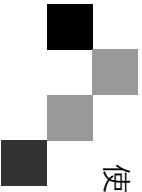
★ 重要

- 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。



■ 本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。